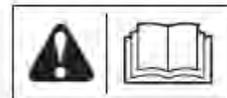
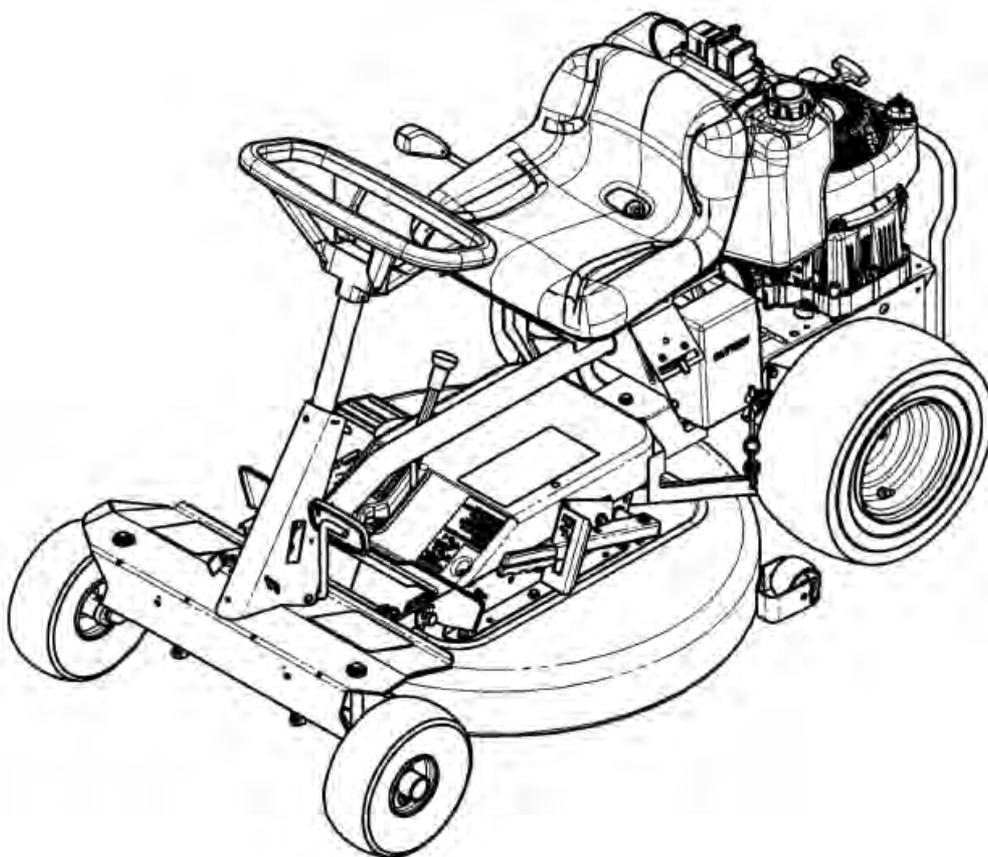


SNAPPER®

2812524BVE

3317524BVE

取扱説明書



ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みください



ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン株式会社

7105358 Rev - JP

この度はスナッパー製品をご購入いただきありがとうございます。

- この説明書は芝刈機の正しい取扱方法と、簡単な点検と手入れについて説明してあります。
- 運転する前に必ずお読みいただき、正しく安全な取扱いをお願いします。
- 本機の品質には万全を期しておりますが、作動の不具合や部品などに不備な点がありましたら、弊社、購入販売店、または協力サービス店へご連絡ください。
- この取扱説明書はいつも手元に保管して繰り返しお読みください。
- 取扱説明書に記載された使用方法及び保守点検を守らない場合は、本機の故障や事故などの原因となり、機械の寿命を縮めるばかりでなく作業の安全を損ないます。修理、点検、部品注文の際、販売店へ製品の情報が必要となります。

芝刈機のモデル番号/シリアル番号、エンジンモデル・タイプ・コード番号を記録しておいてください。これらの番号は、芝刈機の図に示された箇所に示されています。

注意：エンジン番号の確認位置に関しては、エンジンのバルブカバーに刻印してあります

製品データ	
モデル名 (Model Description Name/Number)	
製品シリアル番号 (Unit SERIAL Number)	
購入販売店名	購入日
エンジン番号 モデル タイプ コード	

目次

1. 組立	4
2. 安全の手引き	11
3. 使用上の注意、警告事項	13
4. 各部名称	17
5. 芝刈機の操作方法	18
5-1 一般的な安全操作のために	18
5-2 燃料の補給	18
5-3 始動前の点検	18
5-4 運転	19
5-5 始動と操作	20
5-6 始動と運転	21
5-7 エンジン、ブレード、走行の停止	22
5-8 刈高さの調整	23
5-9 リバースロックアウトメカニズム	23
6. メンテナンスチャート	25
7. メンテナンス	26
7-1 エンジンオイルの交換	26
7-2 エアクリーナの清掃	26
7-3 ブレードの点検	26
7-4 ブレード駆動ベルトの点検	27
7-5 ブレードブレーキ	27
7-6 ブレーキ/駐車ブレーキの調整	27
7-7 インターロック(安全装置)の点検	28
7-8 リバースロックアウトメカニズムの点検	28
7-9 各部のグリス給油	28
7-10 エンジンの点検	28
7-11 モアデッキの水平度の点検	29
7-12 モアデッキの清掃	29
7-13 ブレード回転軸の潤滑	29
7-14 デッキ連結部の潤滑	29
7-15 前車軸ベアリングの潤滑	29
7-16 シフトレバーの潤滑	29
7-17 後車軸ベアリングの潤滑	29
7-18 デファレンシャルの潤滑	30
7-19 チェーンケースの潤滑	30
7-20 エンジンの調整と修理	30
8. 調整と修理	32
8-1 モアデッキと周辺部品の調整	32
8-2 ブレードブレーキの調整	32
8-3 モアデッキの左右の高さ調整	33
8-4 モアデッキの前後の高さ調整	33
8-5 モアドライブベルトの調整	34
8-6 ドライブユニットの調整	35
8-7 モアブレードの交換	36
8-8 モアベルトの交換	37
8-9 バッテリ	38
9. トラブルシューティング	41

1. 組立

組み立てに必要な工具

：ハンマー、ペンチ、7/16” と 1/2” のスパナもしくはソケットレンチ

この芝刈機は予め当社で組み立てて配送しておりますが、事情によってはステアリング、シート、燃料タンクが外された状態で配送される場合があります。木枠を取り外した後本体に損傷がないか、付属部品が必要な数だけあるか確認してから、組み立て作業を行ってください。

木枠の取り外し

1. 上部と両サイドの木枠を外し、付属部品、取扱説明書や本機の周りの緩衝材を外します。
2. 本機を固定しているバンドを周りに注意して切り取ってください。
3. 付属品としては

燃料タンク

キャニスタ/ホルダ Assy

ハンドル

シャフトカバー・シールフォーム

シート

小物類

1-スラストブッシング(5/8” 内径×1-5/16” 外径)

1- コッタピン(3/16×1”)

1-ブッシングカバー

1-ロールピン(1/4×1-1/2”)

2-タイロッド・ブッシング

2-平ワッシャ(5/32×1”)

2-割ピン(5/32×1”)

2-ディファレンシャルグリス・プラグ

2-セルフタッピング・トルクスクリュー

(1/4×1/2”)

1- 燃料VENTホース・クランプ

2- シートブラケット

4-角根ボルト(5/16×1”)

4-ボルトリテーナ(5/16)

4-セルフタッピング・フランジスクリュー

2-センタロックフランジナット(5/16”)

2-シートノブスペーサ

1- シートスイッチ

2- センタロックナット(1/4”)

2-セルフタッピングスクリュー(#10×1/2”)

(ウォーターボトル付のみ)

4. リアパンパーを下にして芝刈機をゆっくりと立

てます。周りの木枠をどかしてください。

注意:しばらく立てたままで作業しますので周りに注意してください。

モアデッキ

1. カuttingブレード

A. ブレードの固定ボルトの締め付けトルクに緩みがないか確認します。

(締め付けトルク: 4.5~5.5kgf-m)

B. ブレードが水平に取り付けられているかを確認してください。

警告

ブレードを触る際には必ず丈夫な皮手袋をはめて行ってください。ブレードは刃物でケガをすることがあります。

ステアリング

1. ステアリングシャフト

A. ステアリングシャフト(図 1-1 の A)の下の端を奥まで押し込みます。

注意:モデルによってはステアリングシャフトにワイヤが付いていることがあります。その場合はワイヤを外してください。

B. タイロッド(B)の端にブッシング(C)をはめて、ステアリングシャフトプレートに入れ、平ワッシャ(D)と割ピン(E)で止めます。

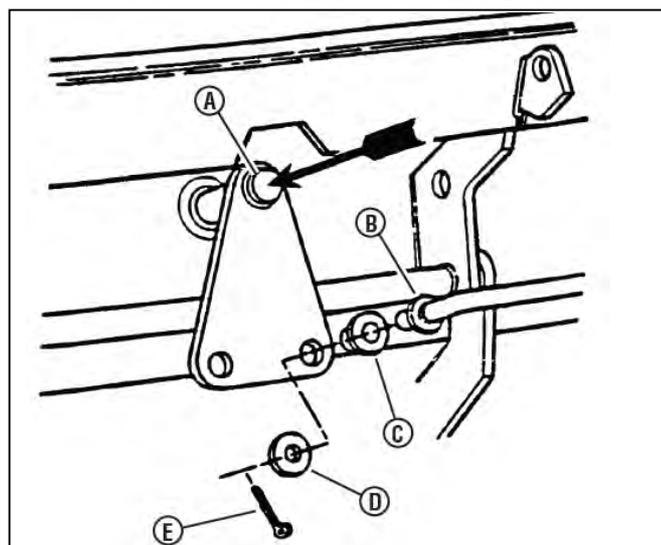


図 1-1

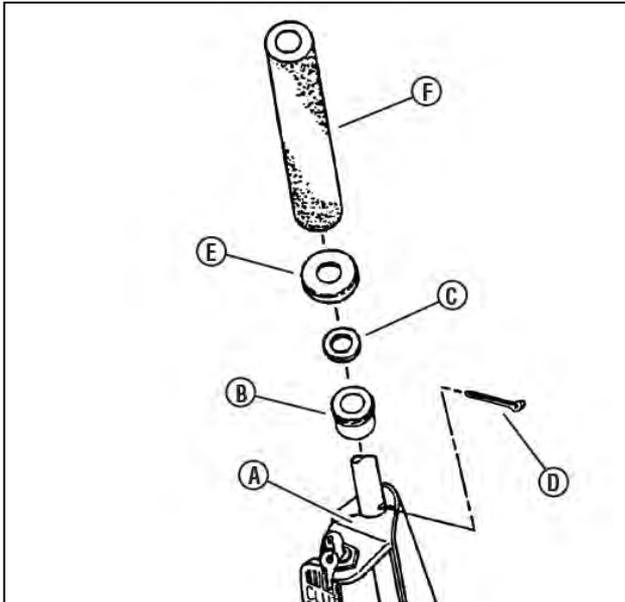


図 1-2

- C. ステアリングシャフトからビニールキャップを取り外します。
- D. アッパーブッシュ(図 1-2 の B)をステアリングシャフトに通し、コントロールパネル(A)に付くまで押し込みます。
- E. スラストワッシャ(C)をステアリングシャフトに通し、アッパーブッシュの上に乗せます。
- F. 割ピン(D)をスラストワッシャの上からステアリングシャフトに取り付けます。
- G. ブッシュカバー(E)を割ピン、スラストワッシャ、ブッシュの上から取り付けます。
- H. ステアリングシャフトをステアリングシャフトカバー(F)で覆います。

ステアリングホイール(ハンドル)

ステアリングホイール(ハンドル)の取り付け

注意: シートとハンドルの間隔がもっと必要な場合はハンドルの取り付け位置を規定より 180 度回して取り付ければ確保できます。ハンドル中心のロゴも貼り変えてください。

- A. ハンドル(図 1-3 の A)をステアリングシャフトに差し込みます。通常ハンドルはシート側に傾いています。
- B. ハンドルを押さえながら、ロールピン(B)をハンドルとステアリングシャフトの穴に打ち込んで固定してください。

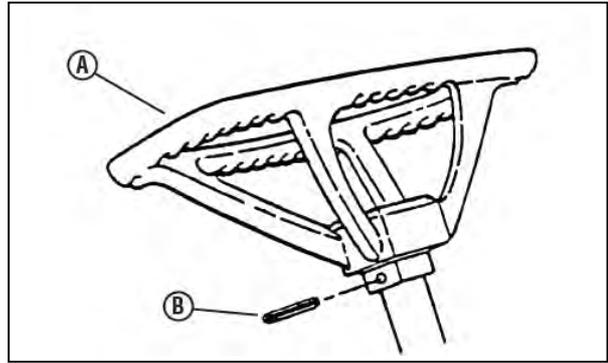


図 1-3

3. タイロッドの取り付け

- A. ブッシング(図 1-1 及び図 1-4 の C)をタイロッド(B)に取り付けます。
- B. タイロッドをステアリングシャフト(図 1-1 の A)とステアリングアーム(図 1-4 の A)に差し込みます。平ワッシャ(図 1-1 及び図 1-4 の D)と割ピン(E)で止めます。

この作業が終わったら立てた本機を戻してください。

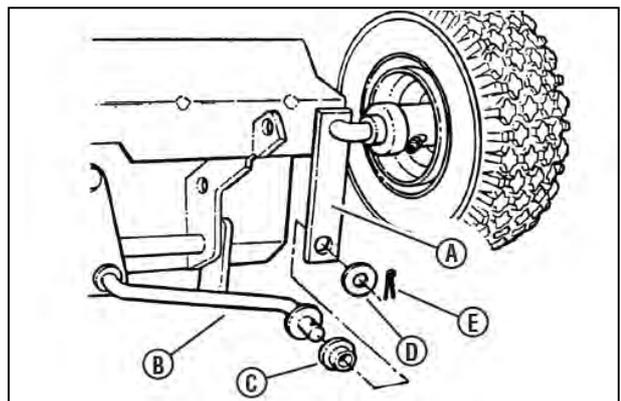


図 1-4

潤滑油

デファレンシャルギア及びチェーンケース

- A. 適切な量の潤滑油が入っているか点検してください。

燃料システム

1. 燃料タンクの取り付け

- A. 燃料タンク(図 1-5 の A)を燃料タンクブラケット(B)にぱちんとはまるよう押し込みます。

重要: 燃料タンクの底にある出口(C)をブラケット(D)の穴に合わせて取り付けてください。無理な取り扱いや取り付けが不十分な場合、燃料漏れを起こすことがあります。

- B. キャニスタ/ホルダー(図 1-6 の A)をタンクの上に取り付けます。キャニスタ/ホルダを押さえているバンドをタンクブラケットにトルクス・スクリュ(B)で固定します。

- C. ホースクランプ(図 1-7 の B)をベントホース(A)の端から 20mm ほどまで差し込みます。ベントホースをタンクの上にあるベント口(C)に差し込みます。クランプをホースの先端(B)で固定します。

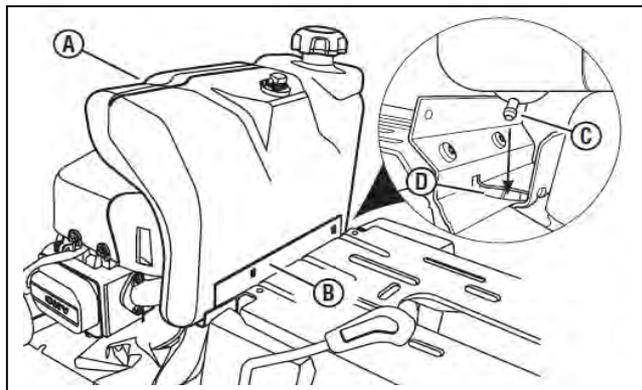


図 1-5

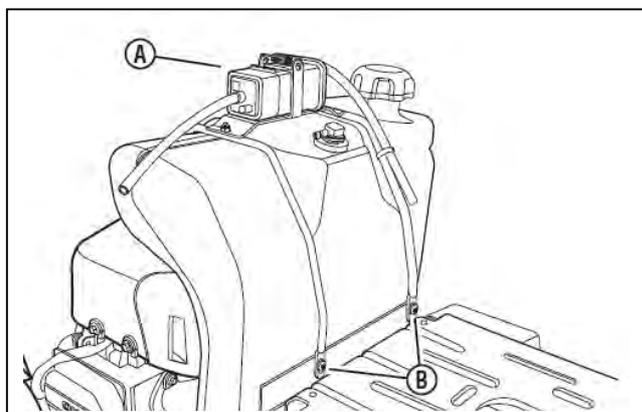


図 1-6

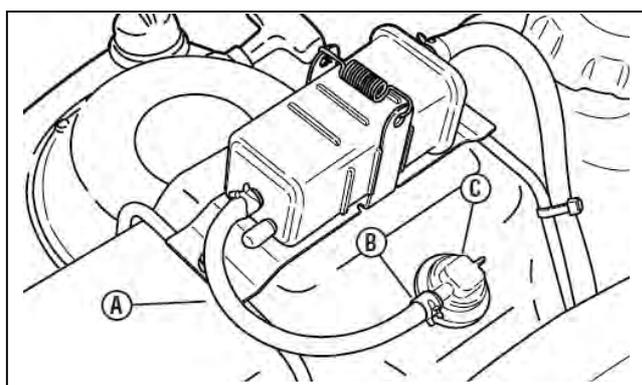


図 1-7

2. シートスイッチの取り付け

- A. シートスイッチ(図 1-11 の A)をシート(B)の底に取り付けます。

2. 燃料ホース

- A. 燃料ホース(図 1-8 の A)を燃料タンク(B)の底にある出口に取り付けます。ホースクランプ(C)をしっかりと固定します。

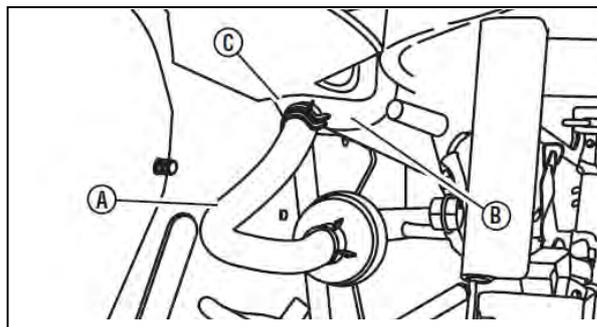


図 1-8

シート

1. シートブラケットの取り付け

- A. 角根ボルト(図 1-9 の B)をシートブラケット(A)に差し込みます。差し込んだボルトにボルトリテーナ(C)を入れて固定します。
- B. シートブラケットをセルフタッピングフランジ・スクリュー(B)が付いたシート(図 1-10 の A)に取り付けます。

注意: シートブラケットは角根ボルトが外側に向くよう取り付けてください。

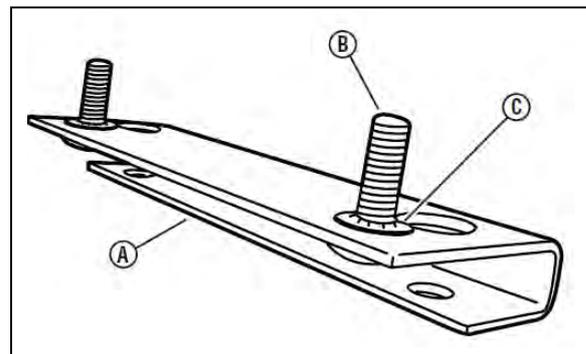


図 1-9

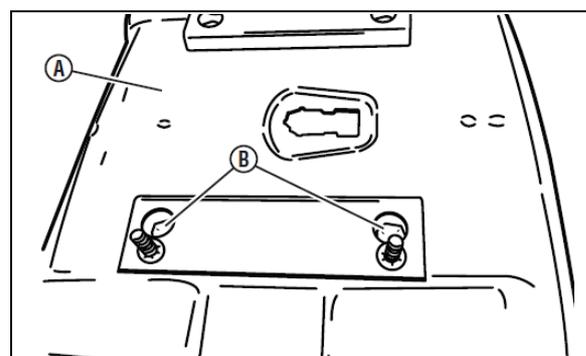


図 1-10

2. シートスイッチの取り付け

- A. シートスイッチ(図 1-11 の A)をシート(B)の底に差し込みます。
- B. スイッチをシートの後方にスライドさせ持ち上げて固定します。(図 1-12)
- C. スイッチのタブ(図 1-13 の A)は穴の外側に出ています。

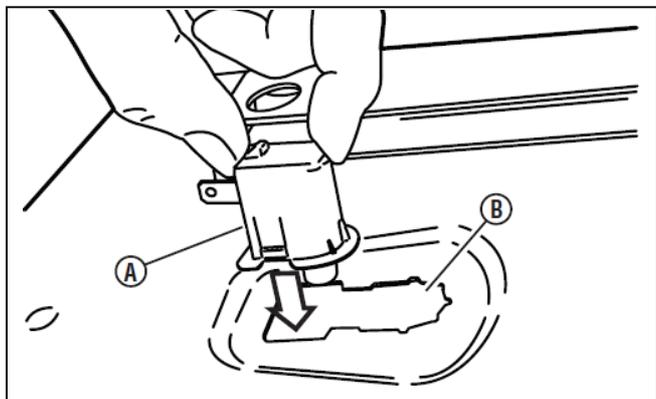


図 1-11

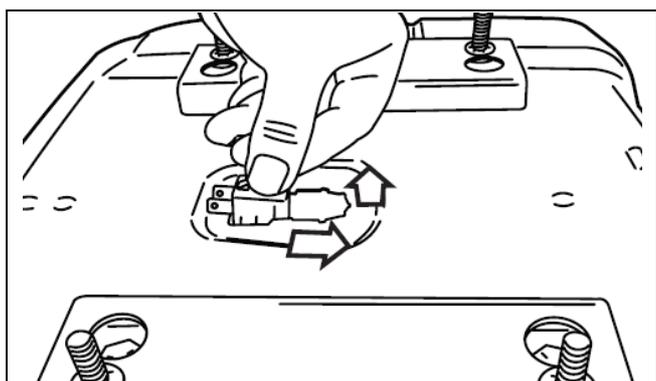


図 1-12

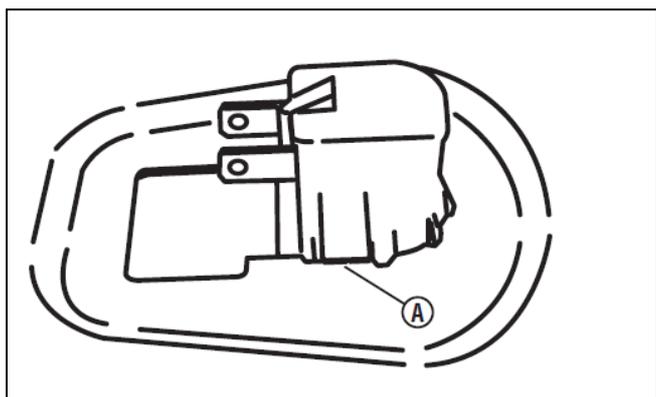


図 1-13

3. シートの取り付け

- A. シート(図 1-14 の A)をシートプレート(B)に置きます。
- B. 2 個のセンターロックフランジ・ナット(C)をリアシートボルトに入れ、ナットを締めます。次に1から1回転半ナットを戻しシートが自由に動くようにします。
- C. 2 個のシートノブスペーサ(D)をシートの前方のボルトに通し、シートノブ(E)をねじ込みます。
- D. シートを望む位置にしてからノブをしっかりと締めます。
- E. スイッチハーネス(図 1-15 の A)をシートスイッチ(B)に接続します。固定用のタブ(C)がロックされていることを確認してください。

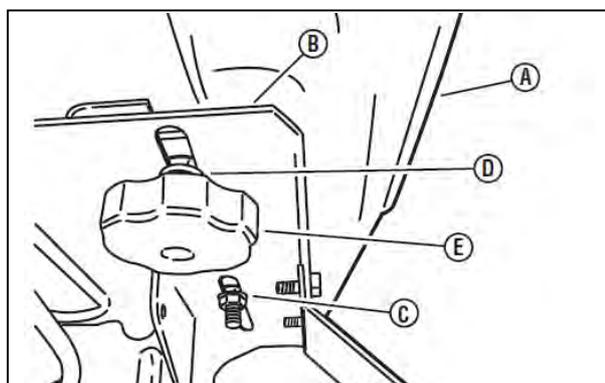


図 1-14

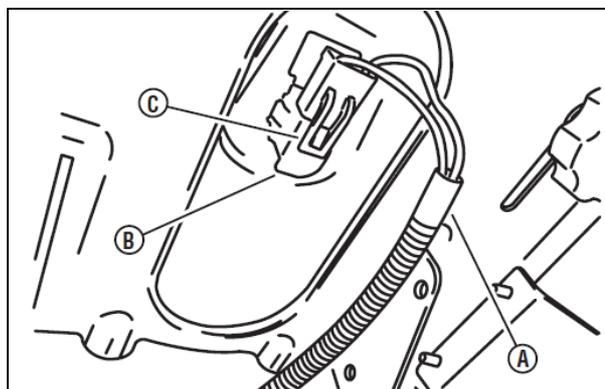


図 1-15

バッテリー

バッテリーは弊社出荷時に国産バッテリーを同梱しています。

1. バッテリーの充電

注意:同梱したバッテリーはすでに充電してありますが、電圧が極端に低い場合は充電する必要があります。

- A. バッテリーを充電するには、換気の良い場所で行ってください。
- B. 市販のバッテリーチャージャーの赤い(+)側を先に接続して黒い(-)側をつなぎます。
- C. バッテリーの充電は約2時間以上とします。

2. バッテリーの取り付け

- A. バッテリーカバー(図1-16のA)を外して2つのラチェットファスナーから外します。
- B. バッテリーコードを外側に向け、バッテリーをケース内に置きます。(図17)

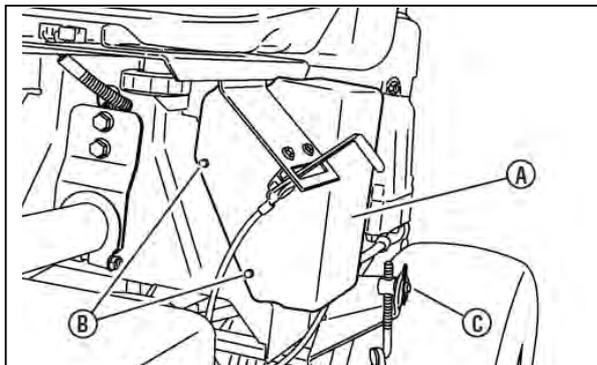


図 1-16

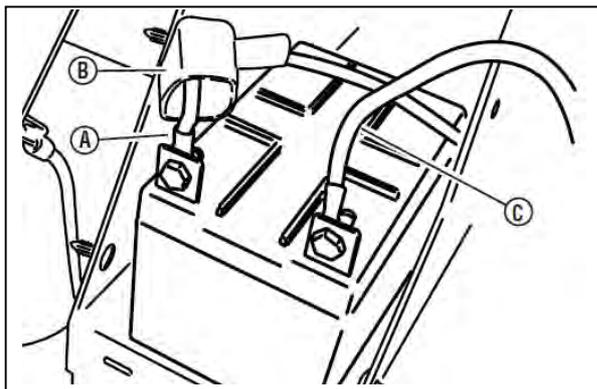


図 1-17

- C. (+)側ケーブル(図1-17のA)を先ず接続し、ロックナットを締めてカバー(B)を被せます。次に(-)側ケーブルを接続してロックナットを締めます。
- D. バッテリー固定ブラケット(図1-18のB)を取り付けます。
- E. バッテリーカバー(図1-16のA)を取り付けます。

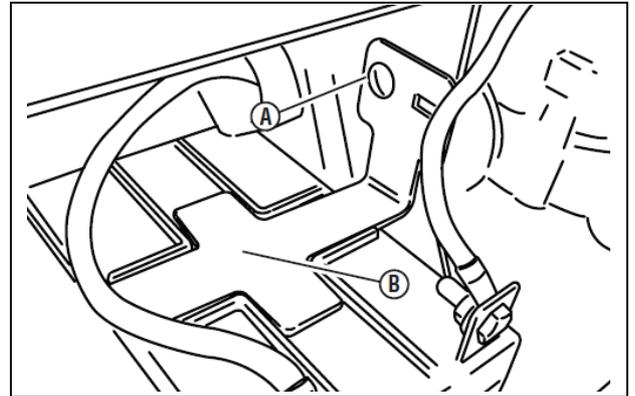


図 1-18

注意:マイナスケーブルはバッテリーカバーの横を通るようにしてください。



危険

バッテリーを取扱い際には、エンジンの取扱説明書を併せて読み、感電死無いよう注意してください。バッテリーが芝刈機に取り付けてある間はバッテリーの充電をしないでください。また急速充電をしないでください。

シュートディフレクタ

モデルによっては、シュートディフレクタ(図 1-19 の A)が上のほうに取り付けられています。ゴムバンドを外して下のほうに取り付け直してください。角根ボルトに締められた平ワッシャとウィングナット(B)を緩めてディフレクタを下げてからしっかりと締めてください。

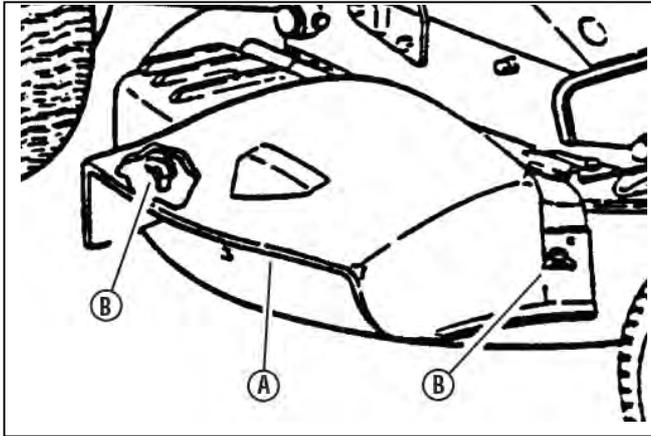


図 1-19

水ボトル(オプション)

1. ボトルホルダの取り付け

- A. 水ボトルホルダ(図 1-20 の A)をステアリングの右側にセルフタッピングスクリュー(B)で固定します。
- B. 水ボトル(図 1-21 の A)をホルダに入れます。

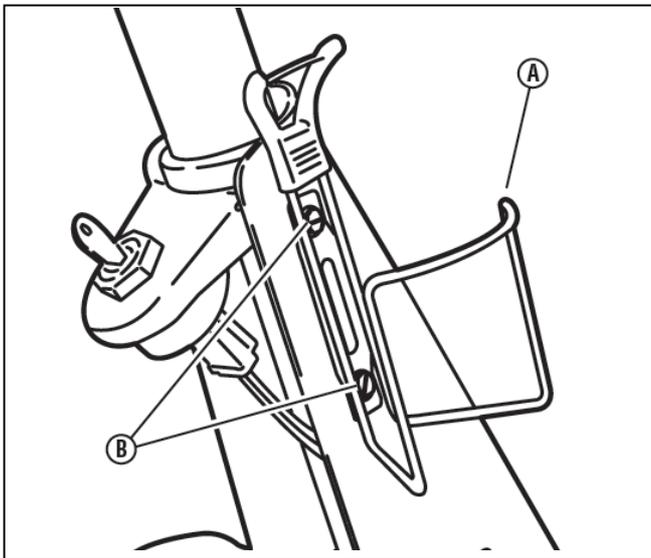


図 1-20

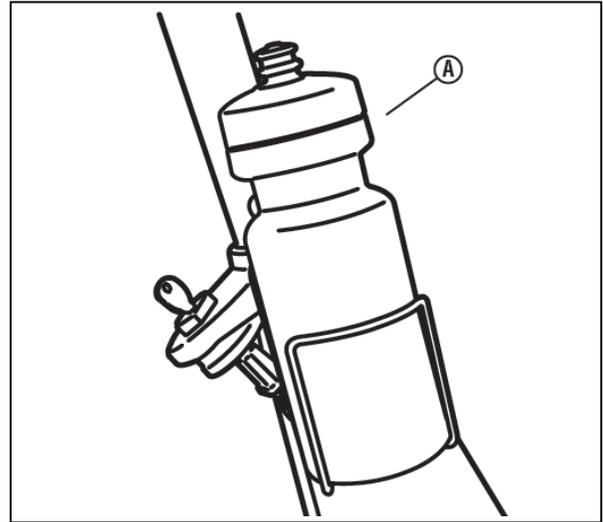


図 1-21

電気配線

電気配線の接続はバッテリーを取り付けてから十分に確認してから最後に行ってください。

- A. エンジンの後方(図 1-22 の A)の配線を接続します。

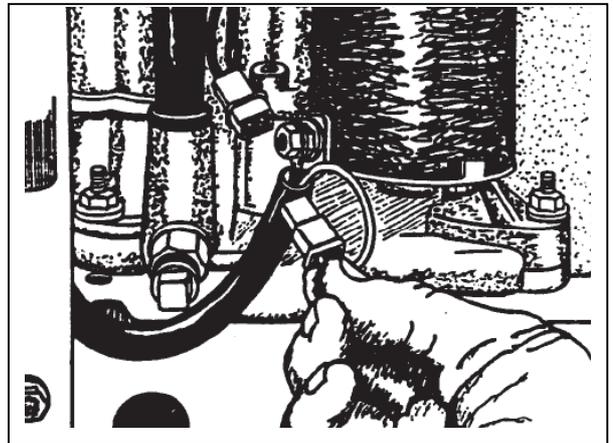


図 1-22

潤滑油と燃料

1. エンジン

- A. エンジンの取扱説明書の推奨するオイルと燃料を入れます。

次ページの組立チェックリストで再確認してください。

組立チェックリスト

工場での最初の調整は実施してあります。また操作上のテストも機械を出荷する前に実行しました。輸送（取扱い・保管）の影響により当初の調整とは異なる可能性があるため、以下のアイテムの全てが確かめいただきますよう、また必要な最終的な調整がセットアップされたかの確認を勧めます。すべてのアイテムも機械をサービスされる前にチェックされるよう、強く勧めます。

セットアップチェックリスト

- _____ ハンドルはステアリングシャフトに組み立てました。
- _____ タイロッドが接続されています。
- _____ 各部の注油がされています。
- _____ オペレータのシートがきちんと取り付けられ、シートスイッチも接続されています。
- _____ 燃料タンクが正しく取り付けられホースも正しく取り付けられました。
- _____ シュートディフレクタが正しくきちんと取り付けられています。
- _____ バッテリーが正しく取り付けられています。

カuttingブレード

- _____ ブレードはしっかりと規定トルクで締め付けられています。
- _____ ブレードチップの間隙はデッキの下から内側にあることを確認したこと。
- _____ ブレードは真っ直ぐなものが取り付けられている。
- _____ 芝の刈高さはきちんと調整されています。（きちんとタイヤが膨らんでいる）
- _____ モアデッキの横方向できちんと平らである。（きちんとタイヤが膨らんでいる）
- _____ モアデッキの前後方向できちんと平らである。（きちんとタイヤが膨らんでいる）
- _____ ブレードレバーが点検され調整されている。
- _____ ベルトの張りが点検され調整されている。
- _____ 後進ロックシステムがブレードペダルを踏んだ際に後進しないこと。

始動前の点検とサービス

- _____ タイヤの空気圧が規定である。前輪 1.1kg/cm² 後輪 0.84kg/cm²
- _____ エンジンオイルが規定量あるか確認。
- _____ デファレンシャルギアのオイル量を点検し必要であれば追加。
- _____ チェーンケースのオイル量を点検し必要であれば追加。
- _____ ヨーク Assy が自由に動くか確認。
- _____ 燃料をタンクに入れ漏れがないか確認。エンジンの取扱説明書に基づく燃料である。
- _____ バッテリーは正しく取り付けられ、配線も正しいこと。

運転してのテスト

- _____ シートスイッチが正しく作動する。
- _____ 安全スイッチが正しく作動する。
- _____ エンジンがスロットルコントロールで正しく始動する。
- _____ 駐車ブレーキが正しく作動すること。
- _____ クラッチ/ブレーキが正しく作動する。不十分な場合は調整する。
- _____ ブレードはブレードペダルを離したら3秒以内に停止する。必要に応じて調整。
- _____ ブレードレバーはブレードペダルを踏むと「OFF」となること。

2. 安全の手引き



この芝刈機は、安全の為の世界基準を満たすよう設計、製造されています。作業者に安全に使用していただけますが、誤った使用方法やメンテナンスを怠ると重大なケガや死亡事故を引き起こす可能性があります。作業者の安全と周囲の人の安全を守る為に、作業者が責任を持って、使用してください。作業中は常に安全を心がけてください。作業中に安全を確認できない場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

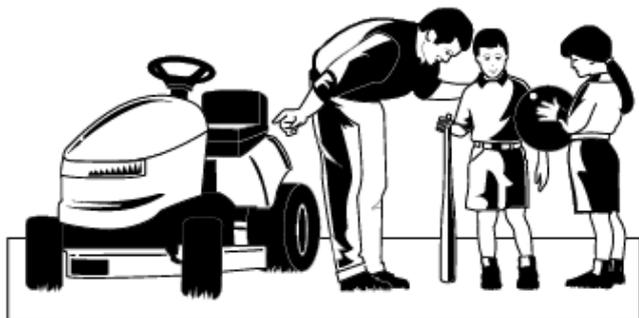
取扱説明書を読む事

この取扱説明書は、操作前はもちろん操作中の注意事項、重要事項全て含んでいます。安全な運転技術、製品の特長、操作方法、全ての安全に関する情報が含まれ、全てを理解する事で製品を最大限使用する事が可能となります。

この取扱説明書の安全の情報と操作方法をよく読み、完全に理解してください。



子供を機械に近づけない事

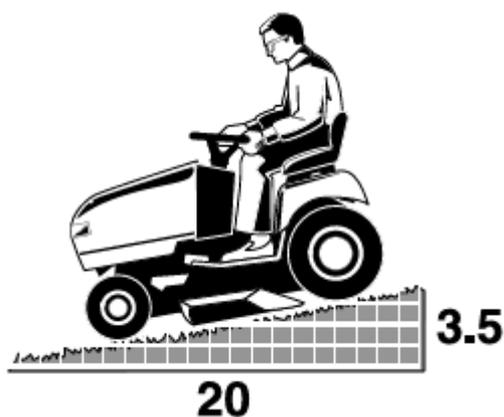


危険な事故は、子供が近くにいることで起こる事があります。作業場所には、決して子供を近づけないでください。近づく可能性がある場合は、必ず、責任のある他の大人が監視してください。エンジンが止まっている場合でも、決して子供を機械に乗せてはいけません。重大な事故を引き起こす可能性があります。

後進に関する注意

特に必要にない限り、後進しながら芝刈をしないでください。どうしても後進が必要な場合、常に後方を確認してください。怠ると重大な事故を引き起こす可能性があります。





傾斜地での操作

急な斜面で機械を使用した場合、重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。急すぎる斜面や補助装置などがない状況で使用すると、コントロールを失ったり、横転する可能性があります。補助装置がない状態では決して傾斜地で操作しない事が一番です。6mで1m以上上昇する傾斜では、決して操作しないでください。また、傾斜地の表面の状況により、安定性と操作性に影響がでます。濡れていたり、安全が確保できないと判断された場合は、決して傾斜地で作業してはいけません。

稼動部に関する注意

この機械には、危険が伴う稼動部が多数あります。しかし、作業者が適切な操作を行なっている限りは、安全に操作できます。デッキには、非常に鋭利なブレードが回転しています。機械が作動中は、決して手や足、体をデッキに近づけてはいけません。この機械にはオペレーターが安全に操作できる為に、安全装置が付いています。この安全装置を解除したり、取り外したりしないでください。安全装置が機能していない場合は、直ちに販売店へ相談してください。



障害物に関する注意



この機械には、回転刃がついています。障害物があるとブレードが、障害物を吸い上げ吹き飛ばし、重大な事故を引き起こす可能性があります。芝刈を行なう前に、作業場から障害物を取り除いてください。芝刈機を使用する際は、集草装置を付けるか、サイドシュートを取り付けてください。もし、作業現場に誰かが入った場合、直ちにエンジンを止め、作業現場から出て行くまで始動しないでください。

燃料とメンテナンスに関する注意

ガソリンは非常に可燃性があります。また、蒸発したガソリンは、非常に可燃性があり、大変危険です。ガソリンは、燃料としてのみ使用し、溶剤やクリーナーとしては決して使用しないでください。火災を引き起こさない為に、ガソリンは、機械の燃料タンクにあり燃料キャップがしっかりされているか、燃料缶に入れキャップがしっかりされている状態で保管してください。ガソリンをこぼしてしまった場合、すぐに拭き取ってください。ガソリンの適切な管理は、機械の安全性と操作性に非常に重要です。特に、安全に関するメンテナンスは定期的に点検し、取扱説明書に記載の保守手順を必ず実行してください。



3. 使用上の注意、警告事項



以下の安全事項をよく読み、完全に従ってください。これらの安全事項に従わない場合、機械のコントロールを失い、作業や周囲の人に重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。また、機械に損傷を与える可能性があります。この芝刈機は身体や周囲の物に損傷を与えるものを飛散させたり、手や脚を切断してしまう恐れがあります。注意事項、警告事項を必ず守ってください。

一般的な操作

1. 芝刈機を始動する前に、この取扱説明書をよく読み、理解してください。
2. 絶対に稼動部や芝刈機の下に手や足を近づけないで下さい。特にデッキの排出口には、常に近づけないでください。
3. 芝刈機の操作に精通した大人だけが操作してください。
4. 作業エリアに障害物（石、おもちゃ、ワイヤ等）がある場合は、回転刃によって飛散する場合がありますので、作業前に必ず取り除いてください。
5. 作業を始める前に、作業エリアに人がいない事を確認してください。もし、作業エリアに人がいる場合は、作業エリアから離れるまで作業を行なわないでください。
6. 決して人を運ぶ為に使用してはいけません。
7. 特別な必要がない限り、後進しながら芝刈をしてはいけません。後進する際は、方向をよく確認してゆっくり後進してください。
8. 芝刈の際に出る排出物を、壁や障害物に直接ぶつけないでください。排出物が跳ね返り、作業に戻る可能性があります。砂利などの上を通る時は、必ずブレードの回転を停止してください。
9. 集草バック、サイドシュート、その他安全装置が排出口に取り付けられていない状態での作業は絶対に行なわないでください。
10. 旋回する際は、ゆっくり行なってください。
11. 動いている芝刈機を無人で放置してはいけません。芝刈機から離れる際はパーキングブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜いてください。
12. 芝刈をしない時や機械の清掃、グラスキャッチャーの取り外し、サイドシュートの取り外しはエンジンを停止し、稼動部が完全に停止した事を確認してから行なってください。
13. 芝刈機の操作は、明るい日中か、十分に明るく光を照らした状態で行なってください。
14. 飲酒泥酔、薬物を吸引した状態で芝刈機の操作をしてはいけません。
15. 道路の近くで操作する際は、交通状態に注意してください。
16. 芝刈機をトラック等に積み込む際は、特に注意してください。
17. 芝刈機を操作中は、常に保護メガネを装着してください。
18. 60才以上の方が芝刈機を運転する場合に、芝刈機に関連したケガをすることが非常に多いという統計があります。60才以上の方は自分自身や他の人に大ケガをさせないで安全に芝刈機を運転できる技量があるか良く判断することが重要です。
19. 芝刈機に重り、ウェイトをつける際は、製造元が推奨する物を使用してください。
20. 作業者は、他人や他人の財産に関する事故を引き起こした場合、責任を負わなければいけない事を常に意識して作業を行なってください。
21. 全ての作業者が、専門的知識、実用的な操作方法を身につける必要があります。
22. 作業をする際は、必ず長ズボンや安全靴を履いてください。裸足、サンダルなどで作業を行なわないでください。
23. 使用前にブレードが安全に確実に取り付けられているか目視により確認してください。磨耗していたり、損傷している場合は交換してください。
24. 給油する際、機械の調整をする際に、アタッチメントが邪魔になる場合は、アタッチメントを取り外してください。
25. 芝刈機を駐車する際、格納する際、無人で放置する際は、必ず機械的に動かない状態にしてください。
26. 作業者が離れる際は、どんな理由であれパーキングブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを外してください。
27. 火災の危険性を減少させる為、刈芝、落葉、可燃物から離してください。刈芝、枯葉等の近くに停車しないでください。

保管と輸送する際の注意

1. トラックに載せる際は、機械がトラックの荷台の前方にしっかり接地しているか確認して下さい。もし、後方のあおりに設置している場合は、あおりを破損させる可能性があります。
2. 機械を保管、輸送した後に給油をする際は、安全に的確に給油を行なってください。
3. 通気、換気が十分に行えない場所には、ガソリンを入れたまま機械を保管しないでください。蒸発したガソリンは、非常に可燃し易い為、非常に危険です。
4. 短期間、長期間の保管に関わらず、保管する際は常に取扱説明書に従って保管してください。
5. 保管後、再び使用する際は、エンジン取扱説明書に従い、適切に始動してください。
6. 燃料をしっかり封ができない容器（湯沸しポットなど）に保管しないでください。機械を保管する際は、エンジンが冷えてから保管してください。

傾斜での操作

傾斜での作業は、機械が制御不能になる可能性がある大きな要因です（適切に操作を行なわないと、重大な事故や死亡事故を引き起こす可能性があります）。傾斜における作業は、常に危険が伴います。安全上、補助的な処置が取れない場合や作業場不安を感じる場合は、決して傾斜で作業を行なわないでください。傾斜での歩行作業や乗用機が傾斜ですべった場合、ブレーキでは制御できなくなります。制御不能を引き起こす主な要因は、以下の通りです。

不十分なタイヤと地面の接地力、スピード出し過ぎ、不十分なブレーキ、機械の能力を超えた作業、作業エリアの状態の認識不足、不適切な牽引の負荷分配など。

1. 傾斜に対して、上下に芝刈を行なってください。傾斜に対して、横切って作業してはいけません。
2. 穴、溝、隆起した部分に注意してください。不整地により転倒する可能性があります。また、高い芝草により地面の状態が確認できない場合がありますので注意してください。
3. 傾斜で作業している間は、遅い速度で作業をし、速度調整は行なわないでください。
4. 芝生が濡れている時は、作業を行なわないでください。タイヤがスリップし、制御不能になる可能性があります。
5. 傾斜を下る時は、常にギアを入れてください。機械がすべるのを防ぎます。
6. 傾斜での始動、停止、旋回は行なわないでください。タイヤが制動を失い、大変危険です。

7. 傾斜では、全ての作業をゆっくり行なってください。速度の急な調整、急旋回は絶対に行なわないでください。
8. グラスキャッチャーや他の集草装置を使用している時はより注意してください。それらは、機械の安定性に影響を及ぼします。急勾配では、使用しないでください。
9. 傾斜で作業をする際、足で機械を支えながら行なわないでください。
10. 急斜面、溝、堤防の近くでは芝刈を行なわないでください。
11. 急斜面では、グラスキャッチャーを使用しないでください。
12. 安全を確信できない斜面では、決して作業しないでください。
13. 重りやウェイトを機械に取り付ける際は、販売店の推奨する物を使用してください。
14. 石や大きな枝等を作業前に取り除いてください。
15. 必ず低速で作業してください。ブレーキが制動しても、タイヤが制御を失う可能性があります。
16. 必要ない場合は、傾斜で旋回しないでください。どうしても旋回が必要な場合は、ゆっくり旋回してください。

警告



16.7%（10°）以上の傾斜では、決して芝刈機を使用しないでください。16.7%とは水平に106cmで607cm上昇する勾配です。

牽引装置（乗用タイプ）

1. 牽引ヒッチが取り付けられている芝刈機にのみ牽引装置を取り付けてください。牽引部以外には、牽引装置を取り付けしないでください。
2. 牽引する傾斜角度や必要なウェイトは、製造メーカーの規定する範囲で使用してください。
3. 牽引された装置に、子供、その他の物・人を決して載せないでください。
4. 牽引装置にウェイトを載せて傾斜で使用すると、芝刈機の制御が失われる可能性があります。
5. 必ず低速で作業し、停止する際は十分な距離を確保してください。
6. ニュートラルの状態、傾斜を下らないでください。



警告

傾斜で機械を操作する時は、ホイールウェイトかカウンターウェイトを使用してください。販売店へ適切なウェイトを確認して使用してください。

傾斜で使用する前に、低速になっている事を確認してください。

フロントのウェイトに加え、後部に集草装置を取り付けている場合は十分に注意してください。

傾斜に対して、上下に芝刈を行なってください。決して、傾斜に対して横切る方向で芝刈を行わないでください。方向転換を行なう際は、十分に注意してください。傾斜で始動、停止を行わないでください。

子供に対する注意

子供の存在には十分注意してください。注意を怠ると重大な事故が発生する可能性があります。子供は、芝刈機に興味を示します。決して子供がいる場合は、作業を行なわないでください。

1. 作業エリアに子供がいる場合は、作業エリアの外側に出るか、作業員以外の大人が子供を監視しているのを確認してから作業を行なってください。
2. 子供が作業エリアの中に入った場合は、すぐに作業をやめ、エンジンを停止してください。
3. 後進をしている時は、後ろに子供がいない事を常に確認してください。
4. ブレードが回転していない場合でも、決して子供を芝刈機に乗せてはいけません。落ちて大ケガをしたり、安全に芝刈作業を行えなくなる可能性があります。過去に芝刈機に乗った事のある子供は、突然作業エリアに入り、芝刈機に近づく可能性があります。
5. 決して子供に芝刈機を運転させてはいけません。
6. 見通しの悪いコーナー、木の周り、障害物等に近づく時は十分に注意してください。

排気に関する注意

1. この芝刈機のエンジンからは、一定の量が人体に害を及ぼす物質が出る場合があります。エンジン作動中は、必要以上に近づかないでください。
2. エンジン排出ラベルで、排出物質を確認してください。

イグニッションシステム

1. このイグニッションシステムは、カナダのICES-002に従事しています。

修理とメンテナンスに関する注意

① ガソリンの取扱い

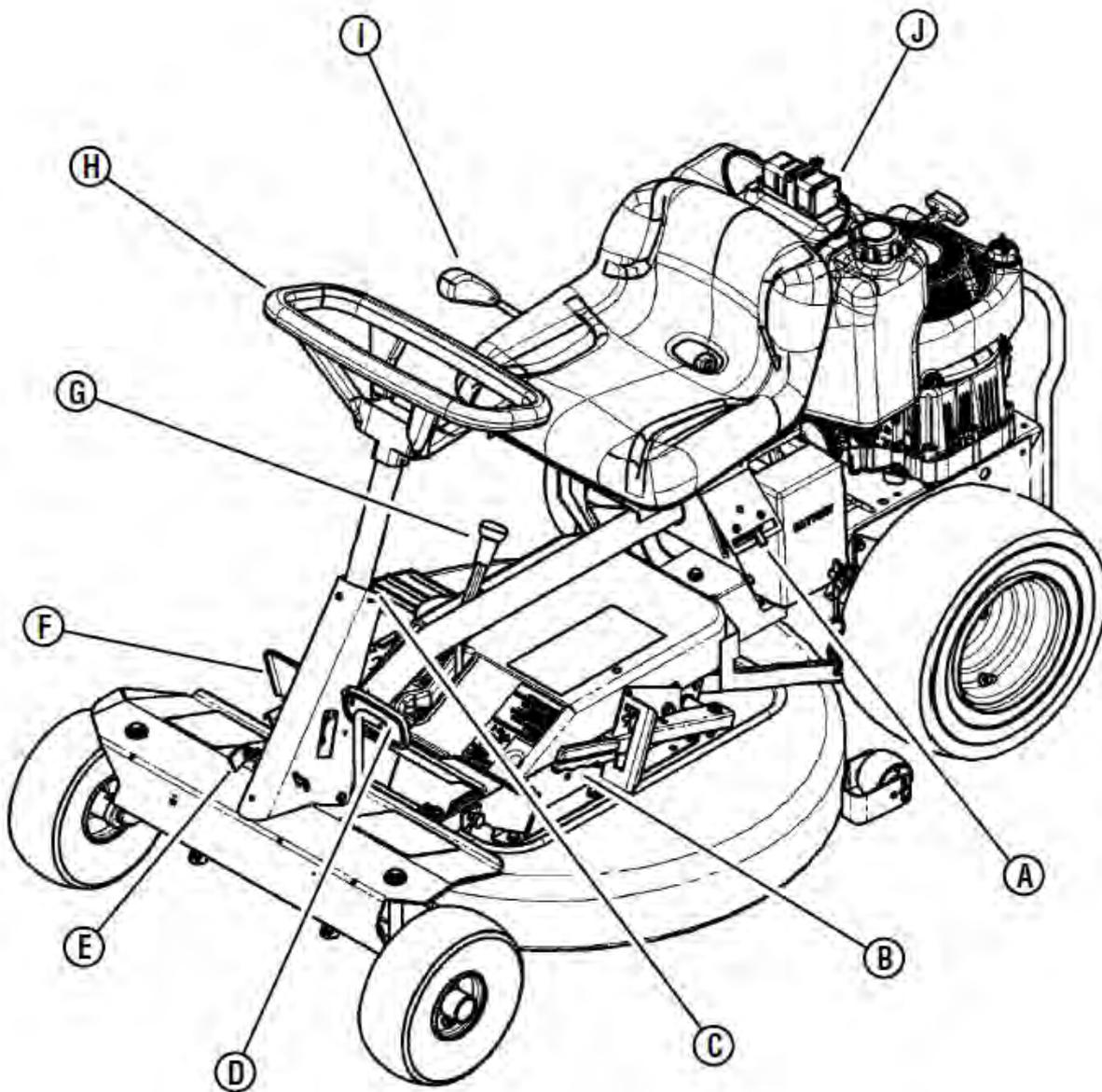
1. 全てのタバコ、葉巻、パイプ等の全ての火を消してください。
2. 消防法で承認された燃料缶だけを使用してください。
3. 芝刈機が動いている時に、燃料を補給したり、燃料キャップを外したりしないでください。
4. 決して屋内で機械に給油を行なわないでください。
5. 火の気のあるところでの保管、給油は絶対に行なわないでください。

6. 輸送中やトラックの荷台で補給は行なわないでください。トラックや輸送機から離れた場所で補給してください。
 7. ガスの発生する機具は離し、地面で補給してください。燃料缶などを使用して補給してください。
 8. 燃料が完全に満タンになるまで、燃料タンクに接触しているノズルは開いておいてください。
 9. 燃料が衣服に付いた場合は、直ぐに着替えてください。
 10. 決して燃料を溢れさせないでください。燃料キャップをしっかり締めてください。
 11. ガソリンや他の燃料を扱う際は、十分に注意してください。燃料は、非常に可燃性があります。
 12. もし燃料がこぼれた場合、よく拭き取り、こぼれた箇所が完全に乾くまで、エンジンは掛けないでください。
 13. 給油が終わったら、しっかりと全ての燃料キャップを取り付けます。
- ② 修理とメンテナンス**
1. 一酸化炭素が発生している可能性がある場所では、決して芝刈機を運転させないでください。
 2. ナットとボルト、特にブレード取り付けボルトは、しっかりと取り付けられているか確認してください。
 3. 決して安全装置を変更しないでください。定期的に安全装置は点検し、必要であれば適切に修理してください。
 4. 芝刈機から刈草、草、その他付着物を取り除いてください。オイル、ガソリンの吹きこぼれはきれいに拭き取ってください。
 5. 障害物等にぶつかって停止した場合、再始動する前に、芝刈機を点検してください。
 6. エンジンが運転している時は、決して調整や修理を行なわないでください。
 7. 集草装置やサイドシュートは、頻繁に点検を行なってください。必要に応じて修理してください。
 8. 刈刃は非常に鋭利な物です。修理する際は、防護手袋等を必ず装着し、十分に注意してください。
 9. ブレーキは頻繁に点検してください。必要に応じて修理してください。
 10. 安全ラベル、警告ラベルはきれいに保ってください。必要に応じて、交換してください。
 11. こぼれたガソリンが着火する可能性がありますので、エンジンが熱い時は、燃料フィルタは交換しないでください。必要以上に、ホースクランプを広げないでください。燃料フィルタとホースにしっかりとホースクランプが取り付けられている事を確認してください。
 12. エンジンの燃料システムに損傷を与える為、メタノールを含むガソリン、10%以上のエタノールを含むガソリン、ガソリン添加物は使用しないでください。
 13. ガソリンタンクからガソリンを抜く場合は、屋外で行なってください。
 14. 不具合のあるマフラーは取替えてください。
 15. 純正部品だけを使用してください。
 16. 工場出荷時の仕様に従って、設定と調節を行なってください。
 17. 修理や点検は、適切な場所で行なってください。
 18. 適切な知識や技術がない場合は、大掛かりな修理は行なわないでください。不適切な修理方法は、製造元の保証等を受けられない場合があります。
 19. 複数のブレードが付いている芝刈機の場合、1つのブレードが他のブレードを回転させる場合がありますので注意してください。
 20. エンジンガバナーの設定を変えないでください。エンジンを改造し、エンジン回転を上げると、作業者の危険を上げる事になります。
 21. 清掃、点検、修理、障害物に衝突した場合、サイドシュートを外す等の際は、エンジンを停止し、キーを抜き、スパークプラグを抜いてから行ってください。
 22. **警告** 動力部を保管する際：スプリング等を取り外す際は、非常に危険です。熟練した技術者が取り外してください。

4. 各部名称

重要

このマニュアルの数字とイラストは、参考のために提供されているものです。一部異なっていることもありますので、ご不明な点は販売店にお問い合わせください。



各部の名称

- | | |
|-----------------|------------|
| A. スロットルレバー | F. ブレードペダル |
| B. 刈高調整レバー | G. ブレードレバー |
| C. キースイッチ | H. ハンドル |
| D. クラッチ/ブレーキペダル | I. 変則レバー |
| E. 駐車ブレーキレバー | J. 燃料タンク |

5. 芝刈機の操作方法



安全装置

この芝刈機には、安全装置が付いています。これらの安全装置は、作業者の安全を守る為に付いています。決して取り外したり、改造したりしないでください。定期的に安全装置を点検し、正常に作動するか確認してください。

安全装置の点検

この芝刈機は、座席に安全装置が付いています。春と秋に定期的に座席の安全装置の点検を下記に従って行なって下さい。

テスト1-下記の状態のいずれかが機能している場合、エンジンは始動しません。

- ・ トランスミッションレバーがニュートラルの位置以外にある時 もしくは
- ・ PTOスイッチが「ON」の状態にある時 or
- ・ クラッチ/ブレーキペダルが十分に踏み込まれていない時

テスト2-下記の状態が全て満たされているときエンジンは始動します。

- ・ トランスミッションレバーがニュートラルの位置にある時 および
- ・ PTOスイッチが「OFF」の状態 加えて
- ・ クラッチ/ブレーキペダルが十分に踏み込まれている状態

テスト3-下記の状態のいずれかが機能するとエンジンは停止します。

- ・ クラッチ/ブレーキペダルが十分に踏み込まれていない（パーキングブレーキもかかっていない）状態で、作業者が座席から離れた時 もしくは
- ・ PTO スwitchが「ON」の状態で作業者が座席を離れた場合

注意：エンジンが完全に停止する前に、作業者が座席に戻った場合、エンジンが動き、PTOクラッチも再び動き出します。

注意：エンジンが完全に停止した後、作業者が座席に戻った場合、PTOスイッチを「OFF」にしないとエンジンは始動しません。

テスト4-ブレードブレーキの点検

ブレードとデッキドライブベルトは、PTOスイッチを「OFF」にすると、3秒以内に停止します。もし、3秒以内に停止しない場合は、販売店に相談してください。

テスト5-RMO(Revers mow Option)スイッチの点検

- ・ PTOスイッチが「ON」の状態、かつRMOスイッチが機能していない状態で後進するとエンジンは停止します。
- ・ RMOライトは、RMOが機能している時に点灯します。



警告

この安全装置が完全に機能していない場合、芝刈機を使用してはいけません。販売店へ御相談ください。安全装置が十分に機能していない状況で、安全装置を改造しないでください。

5-1 一般的な安全操作の為に

この芝刈機を使用する前に、取扱説明書を良く読み、安全に関わる全ての情報を確認してください。全ての操作と停止方法を良く理解してください。

5-2 燃料の補給

1. 燃料キャップを外してください（図5-2のB）
2. 燃料を満タンにしてください。入れ過ぎに注意してください。燃料タンクには、余分なスペースがあるようにしてください。推奨される燃料は、エンジンの取扱説明書を参照ください。
3. 燃料キャップを取り付け、手でしっかりと締めます。

5-3 始動の前の点検

- ・ エンジンオイルがディップスティックの「Full」の位置まで入っているか確認してください。推奨されるエンジンオイルは、エンジンの取扱説明書を確認ください。
- ・ 全てのナット、スクリュ、ピンが適切な位置にしっかりとめられている事を確認してください。
- ・ 全ての操作がスムーズに行なえるよう座席位置を決定します。
- ・ 新しいガソリンを入れてください。推奨されるガソリンは、エンジンの取扱説明書を確認ください。
- ・ タイヤの状況を確認してください。傾斜で作業する場合は、特に注意してください。

5-4 運転

エンジンの始動前に

エンジンの始動前に次の各部分の点検、調整を行います。

1. タイヤの空気圧を点検します。必要に応じ調整してください。
前輪 1.1 kg/cm² 後輪 0.84 kg/cm²
2. デッキのシュートディフレクタやカバー等が定められた位置にあるか確認し、緩んでいれば増し締めしてください。
3. エンジンオイルを点検してオイルゲージの「FULL」位置(図5-1のA)にあることを確認してください。エンジンの取扱説明書に従ってください。

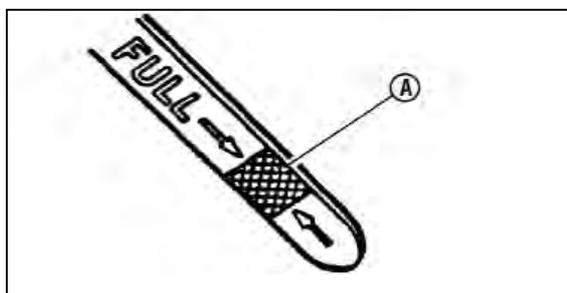


図5-1 オイルのFULL マーク

4. 座席に座ってみて、運転操作しにくい場合は図5-3のAのように座席の位置を調整してください。「シートの調整」項参照
5. ブレードペダルを足で踏んだ際、ブレードレバーがブレードを止めるために「ON」から「OFF」まで動くか確認します。
6. ブレードペダルを踏んでシフトレバーが「後方」とならないよう確認してください。
7. デッキやエンジンの表面に付着したオイルや埃や草を取り除きます。エンジンの冷却空気取り入れ口やフィンの周りは常にきれいにしてください。
8. 燃料補給後にガソリンの蒸気が拡散するよう本機の外側に押します。燃料補給の後に燃料タンクキャップ(図5-2のA)をしっかりと締めてください。

重要: タンクから溢れさせないでください。

重要

エミッションシステムを損傷しないために:

- 燃料タンクに燃料を入れ過ぎないでください。入り口のネックのところまで止めてください。
- 芝刈機を立てる前に燃料タンクを空にしてください。

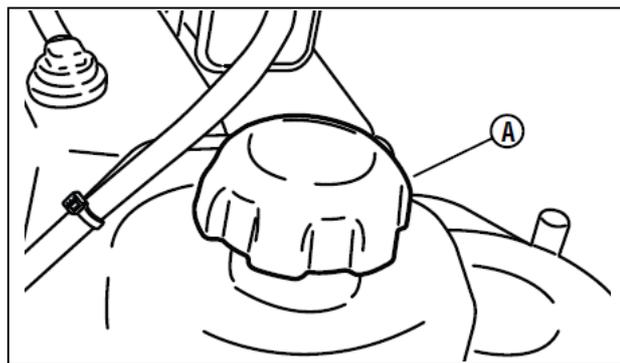


図5-2 燃料タンクキャップ

5-5 オペレータの座席調整

座席に座ってみて運転操作がしにくい場合は、次のように調整してください。

1. エンジンを停止して、二つの調整ノブ(図5-3のA)を緩めます。座席を操作しやすい位置にしてからノブをしっかりと締めます。

注意: 二つのノブを緩めても座席が前後に動かない場合は、座席の後方にある5/16”のロックスクリュもしくはナット(B)を少しゆるめてください。

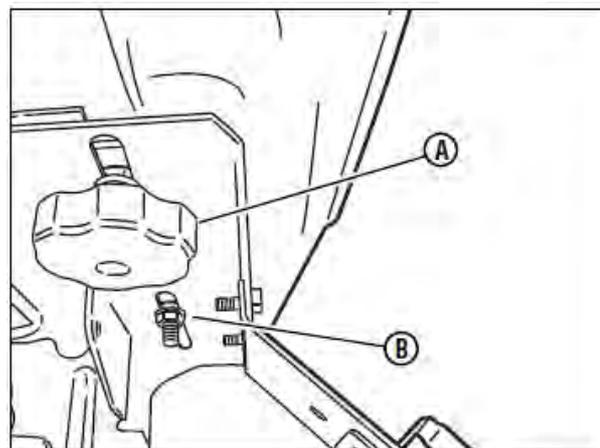


図5-3 座席の調整

5-5 始動と操作

エンジン(セル付)

重要:オペレータがシートに座って、クラッチ/ブレーキペダルを踏み込み、かつブレードレバーが「OFF」となってイグニッションキースイッチを「START」に回してはじめてエンジンが回転し始動します。

エンジンの始動には

1. トランスミッション・シフトレバーをニュートラルの位置(N)とします。「車輪駆動」の項参照

警告
トランスミッションのシフトレバーが運転の位置となってエンジンが始動できます。以降の説明を注意深く読んで理解してください。

2. ブレードレバー(図5-4のA)を「OFF」の位置にします。

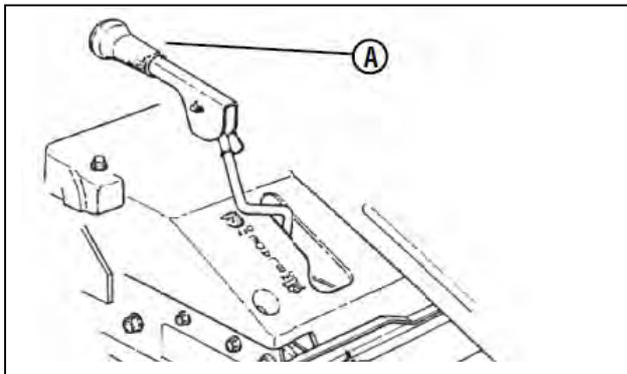


図5-4 ブレードレバー(「OFF」の位置)

3. エンジンを始動時には図4-5のAのクラッチ/ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだままとします。
4. 外気温が低いときは図5-6のAのスロットルレバーをチョークの位置(B)とします。
5. イグニッションキー(図5-7のA)を「START」の位置に回すとエンジンが始動します。

注意：5秒間クランクしてもエンジンが始動しない場合は、一旦キースイッチを戻して約20秒程待ってから再度クラッチ/ブレーキペダルを十分踏み込んで再始動してください。

注意：暖まっているエンジンの再始動をする際はチョークを閉じる必要はない場合があります。

6. エンジンが始動したらスロットルを「SLOW」の位置に戻します。数分間暖機運転を行ってください。
7. バッテリーの電圧が低下して十分にセルモータが回らない時は、次の「手動による始動」を参照してください。

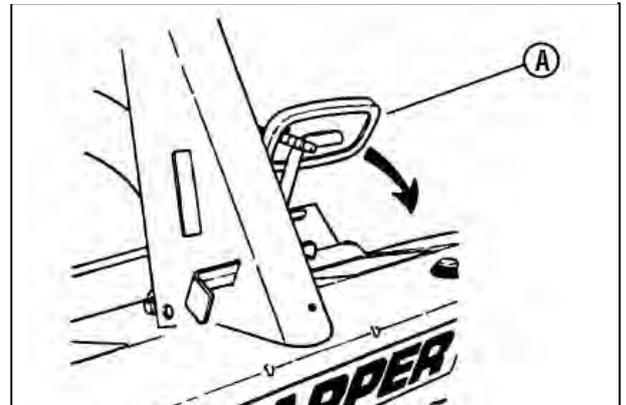


図5-5 クラッチ/ブレードペダルを踏む

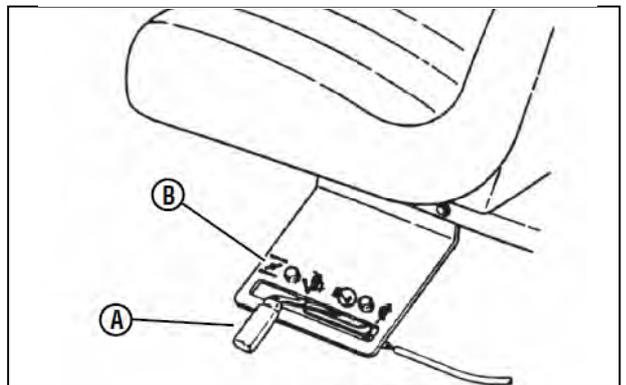


図5-6 スロットルレバー

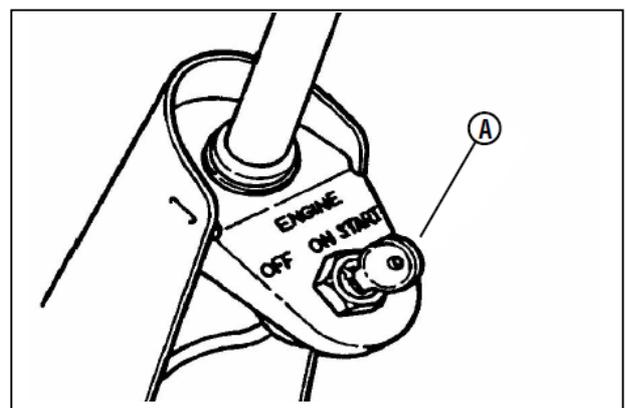


図5-7 キースイッチ

8. モデル3317524BVEに搭載エンジンにはキャブレタアフタファイヤ・ソレノイドが装備されています。バッテリーの電圧低下した場合でスピードコントロールのチョークの位置でリコイルスタータで始動させた場合、キックバック(ケッチン)を受けることがあります。(低温でも高温でも)
バッテリーを充電させてから始動させてください。

エンジン(手動による始動)

重要: キースイッチを回して「ON」としてリコイルハンドルを引くとエンジンが回ってもクラッチ/ブレーキペダルが踏み込まれて駐車ブレーキを掛けたままでは動きません。かつブレードレバーが「OFF」となっています。

エンジンの始動は

1. トランスミッションの変速レバーを(N)ニュートラルの位置とします。「ホイール駆動」の項参照。

重要: エンジンを始動する時は、変速レバーはニュートラルの位置にしておいてください。

2. ブレードレバー(図5-4のA)を「OFF」とします。
3. クラッチ/ブレーキペダル(図5-8のA)を踏み込み、駐車ブレーキクラッチ(B)を押し込みます。クラッチ/ブレーキペダルを離しても駐車ブレーキがきいています。

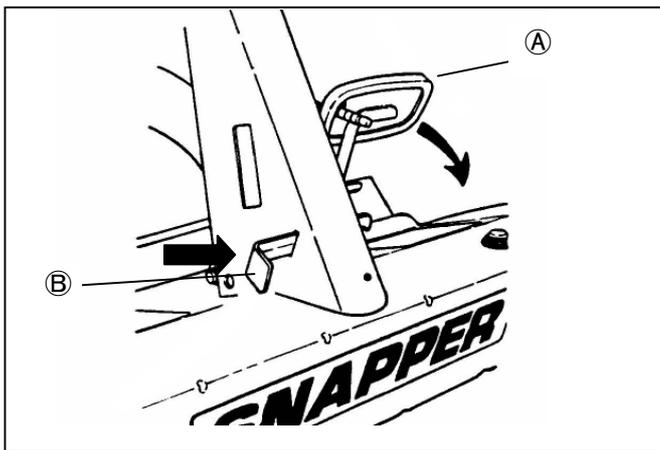


図5-8 駐車ブレーキのセット

4. スロットルレバー(図5-6のA)をチョーク(B)の位置に動かします。(低温時)
5. キー(図5-9のA)を「ON」とします。

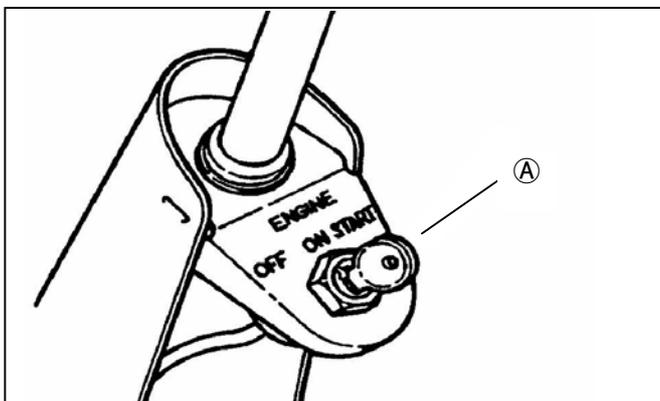


図5-9 キースイッチ

6. エンジンのリコイルスタータ・ロープを引き、エンジンを始動します。

注意: スタータロープはリコイルハウジングへゆっくりと戻してください。

エンジン始動後はスロットルレバーを「FAST」に戻して暖機運転をしてください。

7. エンジンが暖機できたらスムーズに運転できます。

警告

ブレードの回転が切られた際には3秒以内で停止しなければなりません。もしブレードが3秒以上回っている場合はブレードブレーキの調整が必要です。

「ブレードブレーキ調整」の項を参照して調整してください。この調整をしないまま運転しないでください。

5-6 始動と運転

モアブレード

1. スロットルレバーを「FAST」としてエンジンの回転を上げます。
2. ブレードレバー(図5-10のA)を引き上げ、「ON」の位置にしてブレードペダル(B)を踏み込みます。

ブレードペダルを踏んでいる間はブレードレバーは「ON」の位置に留まっています。

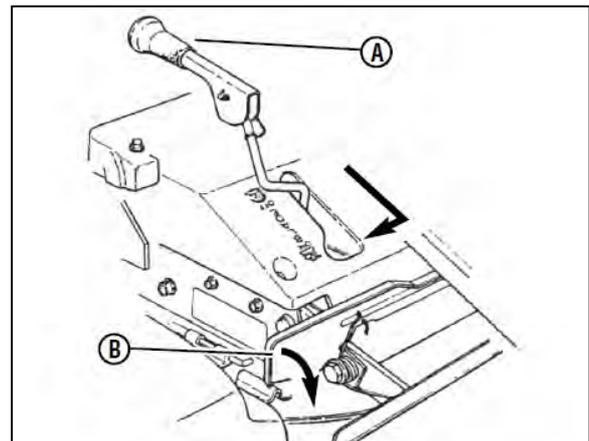


図5-10 モアブレードの接続

走行

1. スロットルレバーを「FAST」としてエンジンの回転を上げます。
2. クラッチ/ブレーキペダル(図5-11のA)を踏み込みます。
3. 変速レバー(図5-12のA)を一段のノッチ(B)にします。
4. クラッチ/ブレーキペダルをゆっくりと離すと芝刈機は前進します。
5. 前進走行中に変速したい場合はクラッチ/ブレーキペダルを踏まずに、変速レバーを2～5段に入れます。

注意:変速レバーを低速に合わせ、スロットルレバーを「FAST」の位置にした状態が最も芝刈に適しています。この状態の時、ブレードは一番スムーズに芝を刈れます。

警告

芝刈機をバックさせるときは、ブレードを止めてください。ブレードを止めて、後ろに子供やペットなどいないことを確認してからバックさせてください。

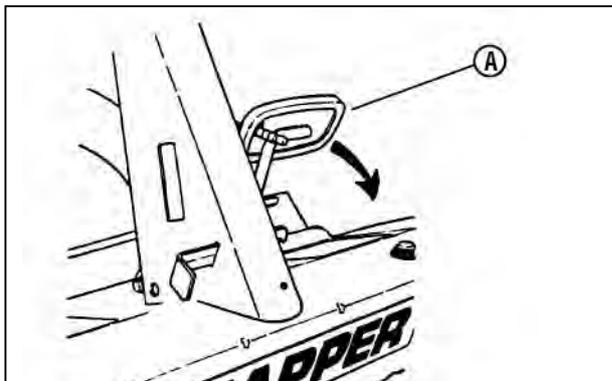


図5-11 クラッチ/ブレーキペダルの踏み込み

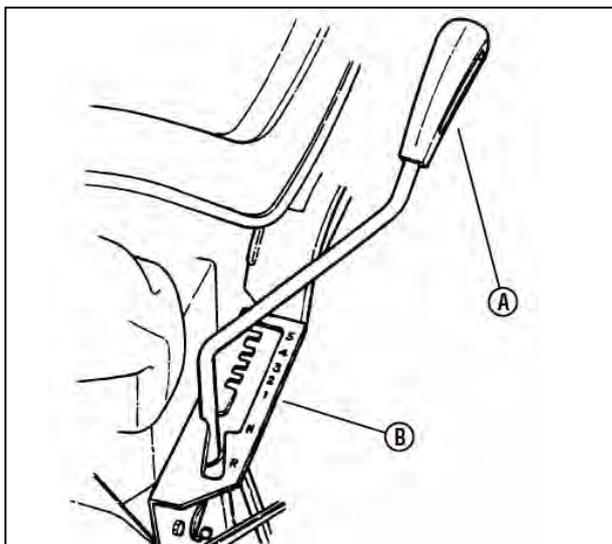


図5-12 変速レバー

警告

芝刈機から離れる際には必ずエンジンを停止させてください。変速レバーをニュートラルとし駐車ブレーキを掛け、キースイッチを引き抜いてください。

エンジン、ブレード、走行の停止

エンジン

1. エンジンを停止するには、スロットルレバー(図5-13のA)を低速に戻し、1～2分アイドル運転をしてからキースイッチを「OFF」とします。

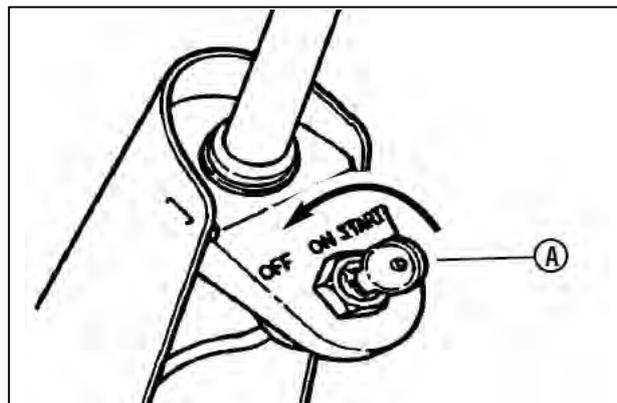


図5-13 キーをOFFとする

走行

1. 変速レバーを徐々に1段まで戻し、芝刈機を停止する場所に移動します。
2. クラッチ/ブレーキペダル(図5-11のA)をいっぱい踏み込めば芝刈機は停止します。

モアブレード

1. ブレードはブレードペダル(図5-14のA)から足を離すか、ブレードレバー(B)を「OFF」にセットすれば停止します。

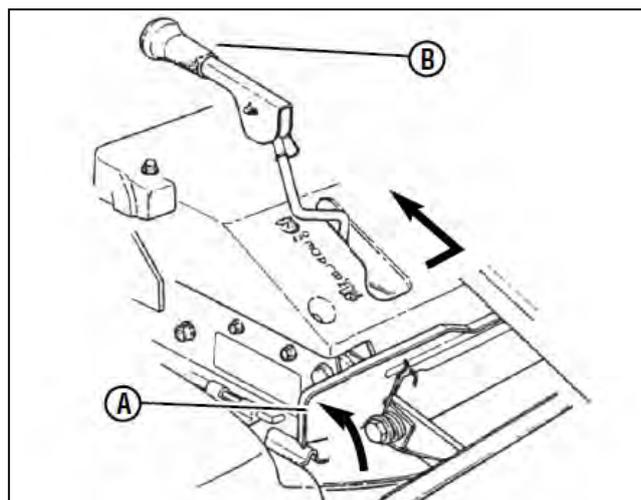


図5-14 モアブレードの停止

警告

ブレードの回転が切られた際には3秒以内に停止しなければなりません。もしブレードが3秒以上回っている場合はブレードブレーキの調整が必要です。「ブレードブレーキ調整」の項を参照して調整してください。この調整をしないまま運転しないでください。

駐車ブレーキ

1. クラッチ/ブレーキペダル(図5-15のA)をいっぱい踏み込みます。そのまま駐車ブレーキラッチ(B)を押し込んで駐車ブレーキがかかります。ラッチが押し込まれている間は駐車ブレーキがかかったままとなります。

警告

芝刈機は絶対に斜面等で斜いた状態で駐車しないでください。



図5-15 駐車ブレーキのセット

2. 駐車ブレーキはクラッチ/ブレーキペダル(図5-16のA)を踏み込むと駐車ブレーキが解放されます。駐車ブレーキラッチ(B)にはスプリングがかかっており、クラッチ/ブレーキペダルを踏むと自動的に戻ります。



図5-16 ブレーキラッチの解放

5-8 刈高さの調整

1. 刈高さは5段階の高さに調整できます。刈高さ調整レバー(図5-17のA)を操作して、作業条件に適した高さのノッチ(B)に合わせて調整します。

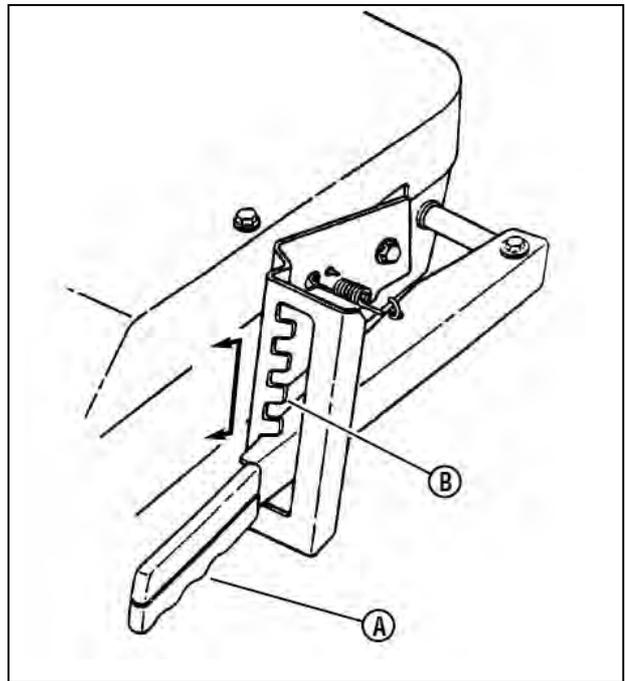


図5-17 刈高さの調整

5-9 リバースロックアウトメカニズム

統計によると毎年芝刈機をバックしている時に悲惨な事故が発生しています。これらの事故は保護者の目から離れた子供を巻き添えにしています。多くの場合、これらの子供たちは芝刈機に乗りたがるものであります。このため芝刈機の潜在的な危険性について訓練するよりも、むしろ危険を避ける方法を教えることが重要です。

この芝刈機にはリバース ロックアウト メカニズムを取り付けてあります。

このメカニズムはブレードが回転中に変速レバーを後進の位置に入れることを防止しています。変速レバーを後進に入れるときは、最初にブレードの回転を停止してから、変速レバーを後進の位置に入れます。これらの操作方法はメーカーの希望することではありますが、リバース ロックアウト メカニズムは芝刈機の運転者が、ブレード回転中は芝刈機をバックさせないという習慣を身に付けることとなります。

安全な運転方法は後退時にはブレードを停止することです。後退する前と後退中には後ろの方向を中心に周囲をよく観て、低い位置の子供やペット及び障害物を十分に注意して運転することです。弊社は事故の原因となる、芝刈り前の準備方法を変えることとしました。弊社はお客様がこの新しいシステムに適用できるようお手伝いいたします。

芝刈機が一般道路に近づいたり、アタッチメントを使用中に、急速に変速レバーを後進の位置に入れる必要があるときに、オーバーライドレバーが装備してあります。

ブレードを回転させる前に、このオーバーライドレバーを押したままにしておくことでブレードペダルから足を離すまでの間ブレードを回転させて芝刈機を後退させることができます。どちらの場合を選んでもこのシステムはリバースロックアウトに戻すことができます。芝刈り現場に子供やペットが完全にいないことを確認しない限り、この特長（オーバーライドレバー）を決して使用してはいけません。 またすべての子供たちがいなくなつて、責任ある大人が監督している場合でも同様です。



注意

リバース ロックアウト メカニズムを必ず使用してください。決してこのメカニズムを使用せずに運転してはいけません。



警告

後退する時は芝刈り機の陰や下に子供やペットがいないかよく見てください。

後退する時は必ずブレードの回転を止めてください。

芝刈作業中はブレードを止めていても、子供を芝刈機に乗せたり、芝刈り現場に立ち入れさせてはいけません。



危険な事故防止

子供や周囲に障害物があるときには芝刈作業はしないでください。



ブレードが付いた芝刈機には子供を乗せ移動させないでください。子供が落ちることもあり危険です。



芝刈機をバックさせる際には下や後方をよく確認してください。

リバース ロックアウト メカニズムのオーバーライド(無効にする)

1. 芝刈機を停止して、ブレードを止めます。
2. オーバーライドレバーを押しておきます。
3. ブレードペダルを踏み込んだままオーバーライドレバーを放します。
4. ブレードレバーを「ON」に入れます。
5. リバース ロックアウト メカニズム モードに戻すには、ブレードペダルから足を離してブレードの回転を止めます。

重要: リバース ロックアウト メカニズムのオーバーライド(無効にする)は、通常の運転中には絶対使用してはいけません。

6.メンテナンスチャート

トラクタとモア
運転 8 時間毎もしくは毎日
インターロックシステムの点検
トラクタやモアデッキに堆積した芝を除去
エンジン周辺の汚れの清掃
運転 25 時間毎もしくはシーズン毎*
タイヤ圧の点検
モアプレートの停止時間
トラクタやブレードで外れていないか点検
運転 50 時間毎もしくはシーズン毎*
バッテリーのとケーブルの清掃
トラクタのブレーキ点検
シーズン毎にディーラーへ
トラクタとモア部分への給油
モアブレードの点検もしくは交換**

* いずれか早い時期

** ブレードは砂が多かったり埃が多い場合にはより頻繁に点検してください。

エンジン
最初の 5 時間
エンジンオイルの交換
運転 8 時間毎もしくは毎日
エンジンオイルレベルの点検
運転 25 時間もしくはシーズン毎*
エアフィルタとプリフィルタの清掃**
運転 50 時間毎もしくはシーズン毎
エンジンオイルの交換
オイルフィルタの交換
シーズン毎
エアクリーナフィルタの交換
プリクリーナの交換
シーズン毎にディーラーへ
マフラとスパークアレスタの点検
スパークプラグの交換
燃料フィルタの交換
冷却フィンの清掃

* いずれか早い時期

** エアクリーナは埃が多い場合にはより頻繁に点検してください。

7. メンテナンス



警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタータキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

最初に

部品の交換が必要なときは、芝刈り機の品質を損なわないよう、スナッパーの純正部品だけを使用してください。整備の際に必要な純正部品や商品に関する情報は、芝刈機をお買い求めの販売店にてお求めください。またシーズン終了後には販売店に点検してもらい、安全装置等が改良されている場合には取り付けってもらうことをお勧めいたします。

7-1 エンジンオイルの交換

1. レンガやブロックを前輪の下に置き、エンジンが低くなるように傾けます。
2. オイル注入口のキャップを緩めます。
3. オイルドレンプラグ(図 7-1 の A もしくは B)を緩めます。
4. オイル排出口の下に最低 2ℓ 以上の容器を置き、オールドレンプラグを開けます。B の場合、左に回して引くと開きます。

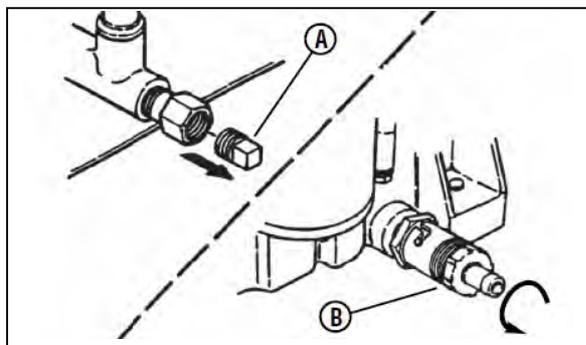


図 7-1 オールドレンプラグ

5. オイルがすべて流れ出たらドレンプラグを締めて、こぼれたオイルをふき取ります。
6. エンジンの取扱説明書に従ってオイル注入口から新しいオイルを入れます。

7. エンジンの取扱説明書に従ってエンジンのオイルフィルタを交換します。

7-2 エアクリーナの清掃

エンジンの取扱説明書に従って、エアクリーナを清掃します。

7-3 ブレードの点検

1. このページの注意事項に従ってください。
2. 芝刈機をリアバンパーを下にして注意して持ち上げてください。
3. プレート固定ボルト(図 7-2 の A)の締め付けボルトがしっかりと締まっているか確かめます。緩んでいる場合は既定のトルクで締め付けてください。締め付けトルクは 4.5~5.5kgf-m です。
4. ブレードの刃が鋭くなっているか、擦り減ったりしていないか調べます。
5. ブレードが曲がったりしていないか調べます。



警告

過度にすり減っていたり傷ついているブレードは絶対に使用してはいけません。「モアブレードの交換」の項を参照して点検・交換してください。

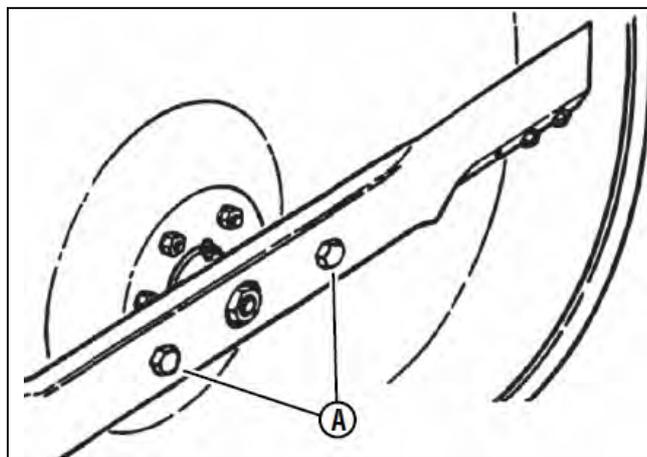


図 7-2 ブレードボルトのトルク確認

重要

エミッションシステムの損傷防止のために:

- 燃料タンクに補給する際には溢れさせないでください。燃料フィルタに燃料が達したら止めてください。
- リアバンパーを下にして芝刈機を持ち上げる前にタンク内のガソリンを抜いてください。

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタートキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

7-4 ブレード駆動ベルトの点検

ブレードは一本のベルトで駆動されています。このベルトがすり減っていた跡や張りが十分か確認してください。

1. デッキを一番低くセットします。
2. ベルトカバー(B)の左右に2本ずつある4本のセルフタッピングスクリュー(図7-3のA)を外します。
3. カバーを後方にスライドさせ、デッキの左側に回して取り外します。

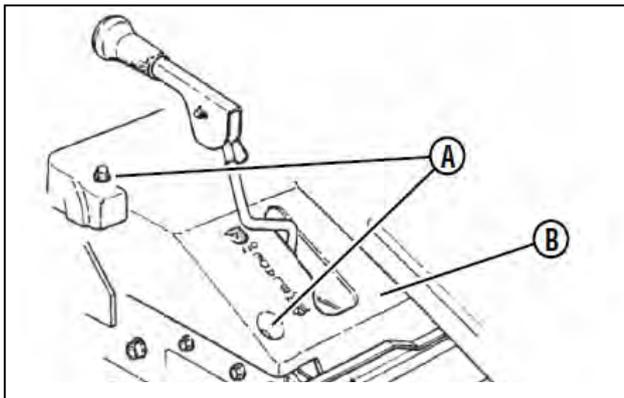


図7-3 ベルトカバーの取り外し

4. 刈高さ調整レバーを3段の位置とします。エンジンを停止して、ブレードレバーを「ON」とし、ブレードペダルを踏み込みます。
5. 28”デッキ*: アイドラプーリ(図7-4のA)とベルトの間隙を測ります。この間隙(B)は26~32mmです。26mm以下の場合には調整します。「ブレード駆動ベルトプーリの調整」を参照。

***重要:** 33”デッキにはブレード駆動ベルトの張り調整は必要ありません。ベルトが摩耗したり傷がある場合には交換してください。

「ブレード駆動ベルトプーリの調整」を参照。

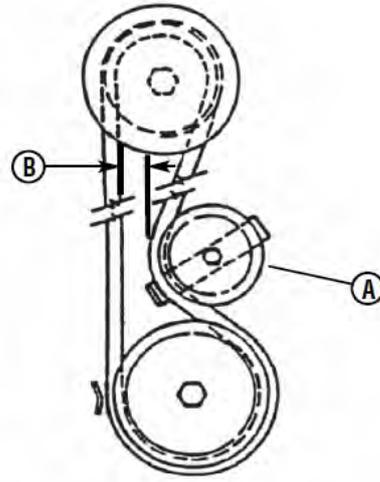


図7-4 ベルト間隙の計測

警告

以下の手順は、エンジンとブレードが動いている時に行います。十分に注意してください。最初に表面から遊離した部品や工具を取り除いてください。ブレードを回転する際は、オペレータが必ずシートに座って行ってください。

7-5 ブレードブレーキ

1. ブレードペダルから足を離すと、自動停止装置によりブレードレバーが素早く戻り、3秒以内にブレードが完全に停止します。

警告

ブレードペダルから足を離して、3秒以内にブレードが停止しない時は、芝刈機を運転してはいけません。

2. もし3美容経過してもブレードが回っている場合、ブレードブレーキを調整してください。「ブレードブレーキの調整」参照。尚作業に不慣れな場合は販売店で調整を受けてください。

7-6 ブレーキ/駐車ブレーキの調整

1. ブレーキが正しくきくのか確認してください。
 - 駐車ブレーキを掛けて、芝刈機を押すと後輪がスリップすればブレーキがきいています。
 - 5速で走行し、ブレーキを掛けたとき1.5m以内で停止すればブレーキがきいています。
2. ブレーキがきかない場合は、ブレーキを調整してください。「ブレーキ/駐車ブレーキの調整」の項参照。

7-7 インターロック(安全装置)の点検

警告

インターロックが正しく作動しない時は運転しないでください。また改造したり取り外したりしないでください。販売店に点検・修理してもらってください。

エンジンが始動しない場合:

1. クラッチ/ブレーキペダルを踏んでいない。
2. ブレードレバーが「ON」に入っている。

エンジンが始動するには:

1. プレートコントロールが「OFF」(ブレードがつながっていない)位置と
2. クラッチ/ブレーキペダルがしっかりと踏まれていること。

エンジンとブレードが停止するには:

1. オペレータがブレードコントロールを「ON」の位置でシートから立ち上がるか
2. オペレータがクラッチ/ブレーキペダルを踏み込まないままシートから立ち上がる

7-8 リバースロックアウトメカニズムの点検

エンジンを停止してリバースロックアウトメカニズムの点検をします。

1. ブレードペダルを踏み込んだままとします。
2. クラッチ/ブレーキペダルを踏み込んだままとします。
3. 1と2をしたままで変速レバーが後進の位置に入らないこと。

7-9 各部へのグリス給油

この芝刈機には以下の箇所にグリス給油口があります。グリスガンを用いて給油してください。

1. 前車軸ベアリング
2. 後車軸ベアリング
3. ブレード回転軸
4. シフトレバー

各項目の潤滑に関する項参照。

7-10 エンジンの点検

1. エンジンオイルを交換。エンジンの取扱説明書に基づきエンジンオイルを交換します。
2. エアフィルタの交換。
 - ・エアクリーナカバーラッチ(図 7-5 の A)を引き上げ回し、エアクリーナカバー(B)を外します。

重要: カバーを外した際、エアフィルタのキャブレタ側を見て、きれいかどうか確認してください。フィルタとプリフィルタを外して確認してください。



図 7-5 エアクリーナカバーを外す
(エンジンモデルによっては異なることもあります)

- ・エアクリーナ(C)を外します。
- ・エアプリフィルタをはずして清掃します。エンジンの取扱説明書に従ってください。
- ・エアクリーナはエンジンの取扱説明書に従って交換し、プリクリーナを取り付けます。
- ・エアクリーナカバーをら取り付けます。ラッチをカバーにかかるよう止め、まわして下に押し込みロックします。

重要: エアクリーナカバーのタブ(D)はエンジンカバーの所定位置にしっかりと差し込まなくてはなりません。またこれによりキャブレタにゴミが入らないようにシールされています。

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタートキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

7-11 モアデッキの水平度の点検

モアデッキの高さ(左右及び前後)を点検し、高さが適正でなければ調整してください。

「モアデッキの水平度の調整」の項参照。

7-12 モアデッキの清掃

リアバンパーを下にして芝刈機を立てて、デッキ裏側の草やゴミを取り除き清掃します。

1. モアデッキの内側に堆積した芝カス等を取り除きます。
2. デッキの上部に堆積したゴミを清掃します。

7-13 ブレード回転軸の潤滑

リアバンパーを下にして芝刈機を立てます。

1. 回転軸にあるグリスニップル(図 6-6 の A)にグリスガンを差し込み、給油します。

重要: 2 時間以上リアバンパーを下にして芝刈機を立てておく場合は、バッテリーをあらかじめ外しておいてください。

7-14 デッキ連結部の潤滑

デッキ連結軸部にエンジンオイルを薄く塗ります。

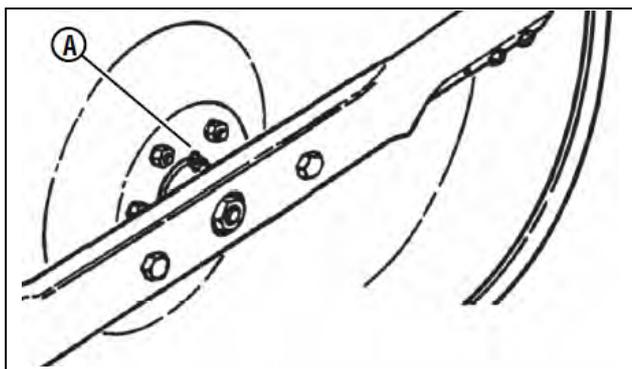


図 7-6 ブレード回転軸の潤滑

7-15 前車軸ベアリングの潤滑

リアバンパーを下にして芝刈機を立てます。

前車軸ベアリングのニップル(図 7-7 の A)にグリスガンを差し込みグリスを給油します。

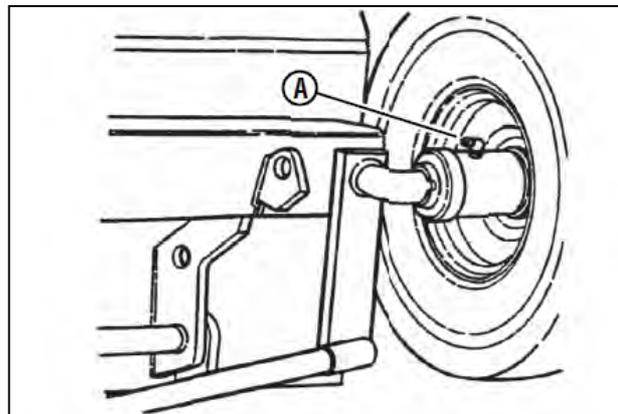


図 7-7 前車軸のグリスニップル

7-16 シフトレバーの潤滑

シフトレバーのグリスニップル(図 7-8 の A)にグリスガンを差し込み、グリスを給油します。

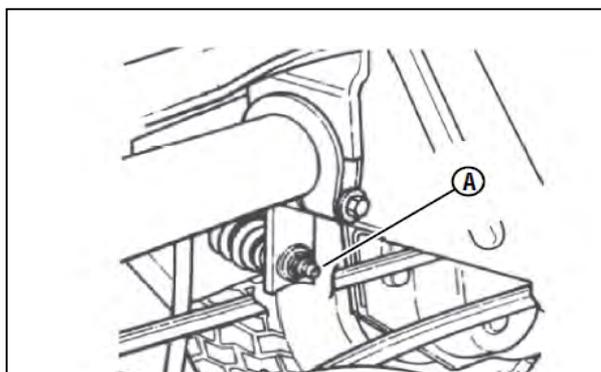


図 7-8 シフトレバーのグリスニップル

7-17 後車軸ベアリングの潤滑

1. 左後車軸ベアリングのグリスニップル(図 7-9 の A)にグリスガンを差し込み、グリスを給油します。
2. 右後車軸ベアリングはデファレンシャル内のオイルで潤滑されていますので、注油の必要はありません。

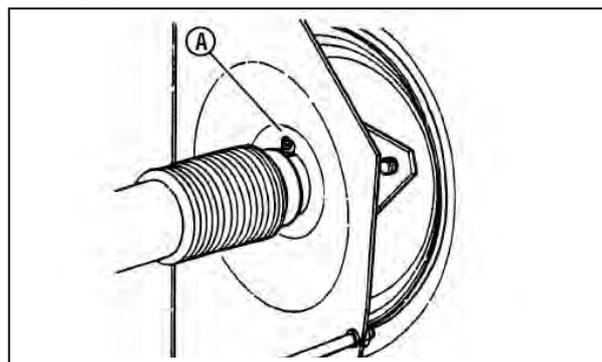


図 7-9 後車軸のグリスニップル

7-18 デファレンシャルの潤滑

1. リアバンパーを下にして芝刈機を立てます。
フィル/レベルプラグ(図 7-10 の B)やデファレンシャルケース(A)に傷や摩耗が無いか調べます。プラグに傷があれば、プラグを交換してください。
2. フィル/レベルプラグを外し、デファレンシャルケース(A)中の潤滑油量を目視で確認し、潤滑油が見えないほど少ない場合は、トランスミッショングリスを追加してください。

重要: デファレンシャルの中に潤滑油が入り過ぎると駆動部分に漏れて故障の原因となります。

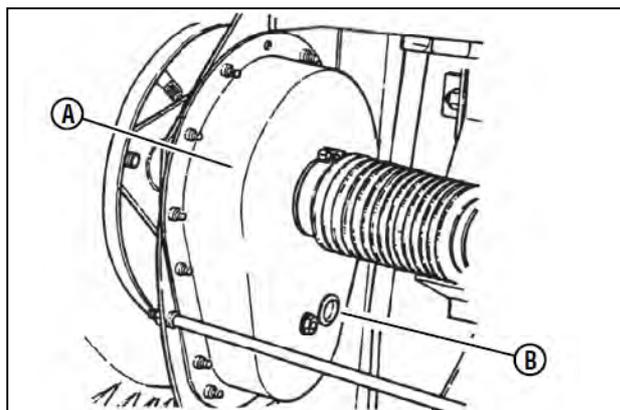


図 7-10 デファレンシャルの潤滑点検

7-19 チェーンケースの潤滑

1. チェーンケース(図 7-11 の A)のフィル/レベルプラグ(B)に傷が無いか確認します。プラグに傷があれば、プラグを交換してください。
2. フィル/レベルプラグを外し、チェーンケース中の潤滑油量を目視で確認し、潤滑油が見えないほど少ない場合は、トランスミッショングリスを追加してください。

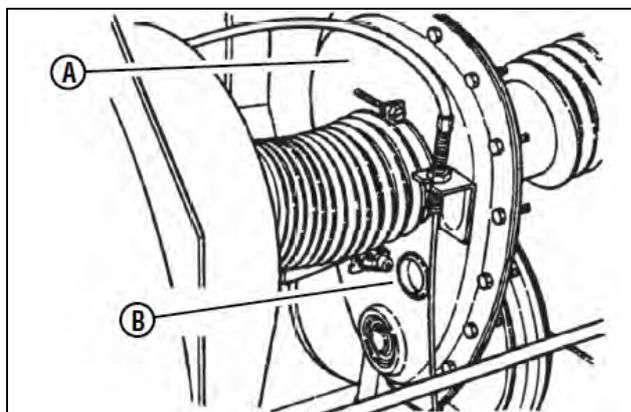


図 7-11 チェーンケース内の潤滑油確認

7-20 エンジンの調整と修理

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタータキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

エンジン

この取扱説明書のメンテナンススケジュールに基づき行ってください。

燃料フィルタ

重要: 燃料フィルタの交換は必ずエンジンが冷えている時に行ってください。

1. 燃料タンクから燃料を抜きます。
2. エンジンを始動してエンジンが止まるまで運転してください。
3. エンジンが冷えてから燃料フィルタ(図 7-12 の A)からホースクランプ(B)を外します。
4. 燃料ホースをフィルタから外し、フィルタは廃棄します。
5. 新しいフィルタを取り付けます。
6. 燃料ホースクリップを取り付けます。
7. 燃料システムに漏れが無いか確認します。

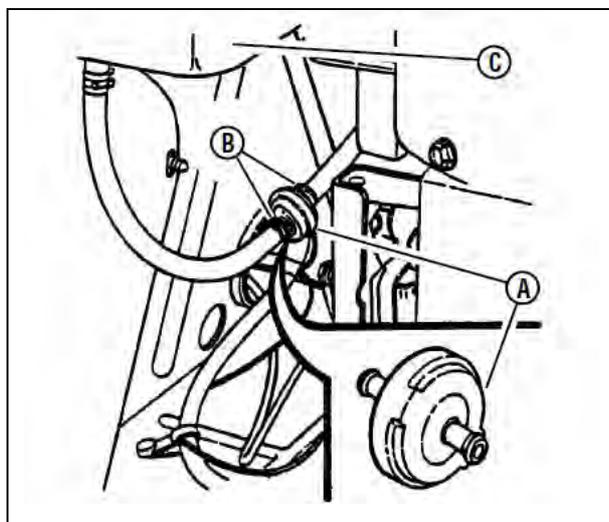


図 7-12 燃料フィルタの交換

併せて常に次の項目でこの芝刈機をメンテナンスして摩耗程度や傷を確認してください。

1. 全てのブッシングと連結部分
2. 左右の前輪キングピン
3. 変速レバー
4. クラッチディスク
5. クラッチヨーク
6. デッキの通風孔、連結部分

古くなったり傷ついた部品は新しい純正部品に交換してください。

保管（使用シーズン以外）

必要に応じて、この芝刈機はリアバンパーを下にして立てることができます。保管後に使用する際に十分に稼働させるために以下の手順で行ってください。

1. 芝刈機に付いた草やゴミをすべて取り除きます。
2. 所定のメンテナンスと給油を行います。
3. 燃料タンクから燃料を抜きます。
4. エンジンを始動し、燃料が無くなるまで運転します。これは保管中にキャブレタ及び燃料系統をきれいに保つためです。
5. バッテリーを外します。
6. 芝刈機はリアバンパーを下にして立てます。

重 要

エミッションシステムの損傷防止のために:

- 燃料タンクに補給する際には溢れさせないでください。燃料フィルタに燃料が達したら止めてください。
- リアバンパーを下にして芝刈機を持ち上げる前にタンク内のガソリンを抜いてください。

8.調整と修理

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタータキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

警告

ブレードペダルから足を離して、3秒以内にブレードが停止しない時は、芝刈機を運転してはいけません。必ずブレードブレーキを正しく調整してから芝刈機を使用してください。

調整や修理の作業に不慣れな方は販売店に依頼してください。

8-1 モアデッキと周辺部品の調整

デッキの水平度やその他の部分の調整・修理はお客様が行うことができますが、もし間違った調整や整備をしてしまったときは販売店に点検を依頼してください。

8-2 ブレードブレーキの調整

自動ブレードブレーキはブレードレバーを「OFF」もしくはブレードペダルを離した際にブレードが3秒以内に停止するものです。停止まで3秒以上かかる場合は次のように計測して調整してください。

1. ブレードレバーを「OFF」としてブレードペダルから足を離した状態で、ブレードレバー(図8-1のA)とラッチプレート(B)前方の縁の間の距離を測ります。この距離(C)は76~82mmです。

この範囲にない場合は次の2の手順に進みます。

2. ベルトカバーを外します。
「ブレードベルトカバーを外す」の項参照。
3. 測定値が82mm以上の場合は、調整ナット(図8-1のA)を右に回して、ブレードブレーキの張りを強くしてください。測定値が76mm以下の場合は調整ナットを左に回してブレードブレーキの張りを弱くしてください。
4. ベルトカバーを取り付け、ボルトを十分に締めてください。

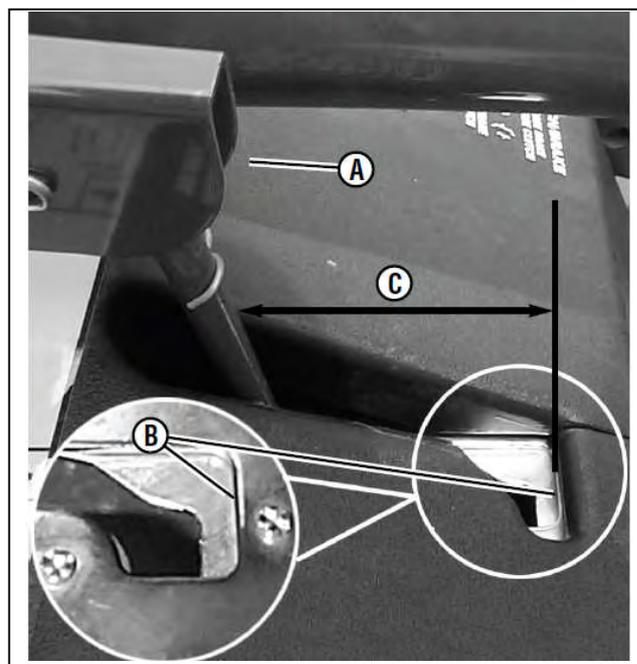


図 8-1 ブレードブレーキの間隙測定

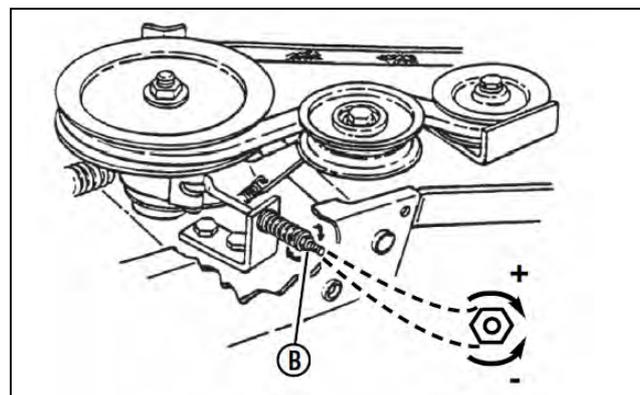


図 8-2 ブレードブレーキテンションの調整

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- ・エンジンを完全に停止します。
- ・スタータキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- ・スパークプラグキャップを外します。
- ・駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- ・エンジンが完全に冷えてから作業します。
- ・燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

8-3 モアデッキの左右の高さ調整

デッキの高さを調整する前に、タイヤの空気圧を正しく調整してください。

前輪 1.1 kg/cm² 後輪 0.84 kg/cm²

1. 芝刈機を固く平坦な場所に移動してください。
2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. エンジンを停止し、キースイッチを引き抜き、スパークプラグからプラグキャップを抜いてください。
4. デッキの後部の中心の下に、5cm 位のアングルを置いてください。
5. 後部のハンガーチェーン(図 7-4 の A)を外してデッキがアングルにあたるまでデッキを降ろします。
6. デッキの両側でブレードの先端から床までの高さを測ってください。左右の高さの差が 3mm 以上だった場合、調整が必要です。以下の手順に従って調整を行ってください。
7. ブレードペダル(B)の左側を保持するハードウェア(図 8-3 の A)をゆるめてください。
8. 互いにブレード端が 3mm の範囲内であるまで、必要に応じてリフトアームを上下に動かしてください。
9. ステップ 4 で緩められたハードウェアを締めてください。正しく水平となったかデッキの両側を再確認してください。
10. サポートブラケット(図 8-4 の A)で整列するために、後部のハンガー・チェーン(B)を再調整してください。

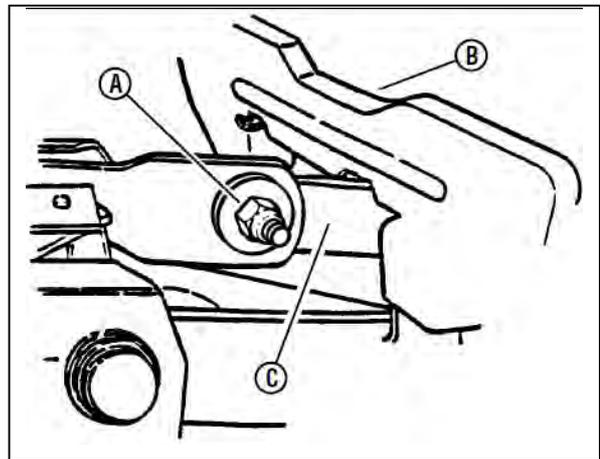


図 8-3 デッキの左右高さ調整

8-4 モアデッキの前後の高さ調整

芝刈機を固く平坦な場所に移動し、ブレードの先端がデッキの前後両端にくるようにブレードを動かします。ブレードの両端の先端から床までの高さ(図 7-4)を測り、前後の高さが同じか、後ろが 3~6mm 低い状態が正常です。後ろが前より高いか、後ろが前より 6mm 以上低い場合は、次の手順に従って調整してください。

1. 後部ハンガーチェーン(図 8-4 の A)をアイボルトから外します。
2. 両方のハンガーチェーンピボット(B)のアイボルトを同じ回数ずつ回し、デッキの後部を上げるか下げて前後の高さを調節します。
(アイボルトのピッチ 1.4mm)
アイボルトは必ず、左右同じ回数ずつ回してください。

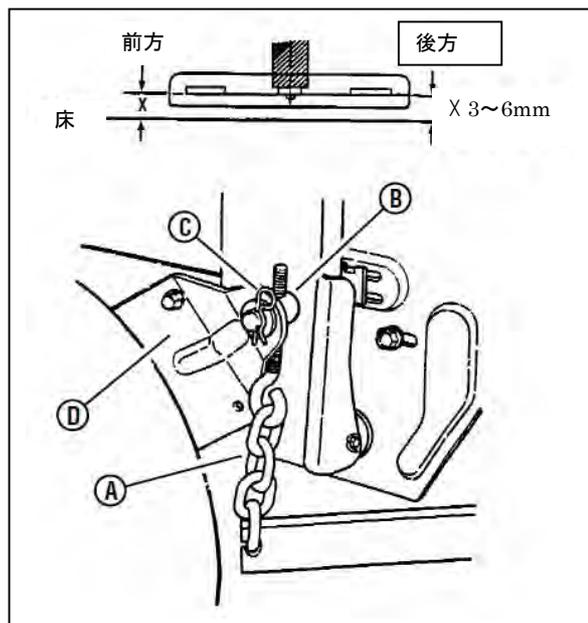


図 8-4 デッキの前後高さ調整

8-5 モアドライブベルトの調整

(28" デッキのみ)

1. ドライブベルトカバーを外します。
2. ブレードレバーを持ち上げ「ON」の状態にします。
3. 刈高さを「3」の位置とします。アイドラプリー(図 8-5 の A)とベルトの間隙(B)を測ります。この隙間は 26~32mm が適切です。

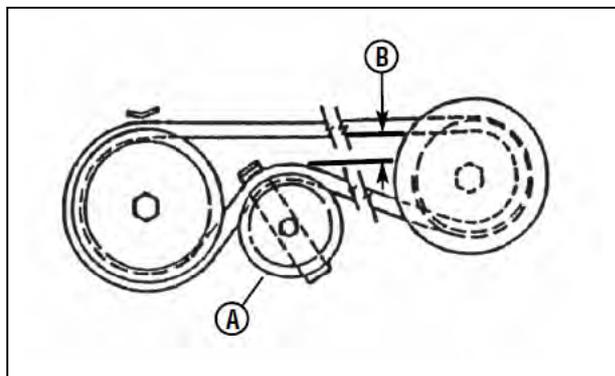


図 8-5 ベルト隙間の計測

4. この隙間が 26mm 以下の場合調節が必要です。
 - ブレードレバーを「OFF」とします。
 - フロントフレーム Assy(B)と後部メンテナンススペースを止めているハードウェア(図 7-6 の A)を緩めます。
 - ブレードレバーが「ON」の状態、ベルトの隙間が約 32mm になるまでフロントフレームを前方に引きます。

重要: 33" モデルはこの調整は必要ありません。しかし、何らかの理由でフロントフレーム Assy が緩んでいる場合、プーリーとベルトの間隙を確認してください。プーリーとベルトの間隙約 32mm が適切です。

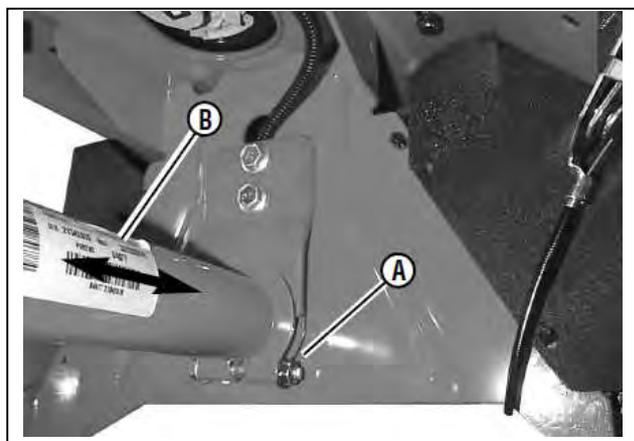


図 8-6 モアベルトの調整

5. ベルトの調整が出来たら、クラッチ/ブレーキケーブルの確認が必要です。

6. ペダル(図 8-7 の A)を一旦踏んで、駐車ブレーキを解除してください。
7. クラッチ/ブレーキケーブルには約 5mm の緩みがあります。もし緩みが無い場合、ケーブルの調整が必要です。
 - クラッチ/ブレーキのゴムパッドをめくりあげます。約 5mm の緩みがあるかどうかを確認します。調整が適切な場合、パッドを交換してください。

重要: 緩みが大きすぎる場合や緩みが小さすぎる場合、クラッチやブレーキの制動に不具合が出る場合があります。必要な場合は、再調整を行ってください。

「ブレーキ/駐車ブレーキの調整」の項参照。

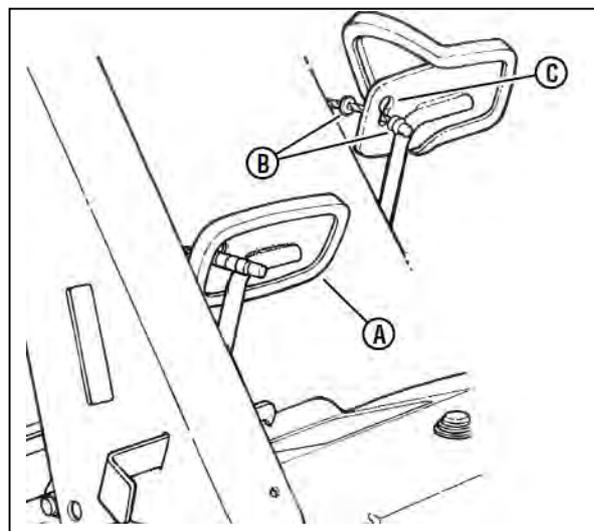


図 8-7 クラッチ/ブレーキの調整

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- ・エンジンを完全に停止します。
- ・スタータキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- ・スパークプラグキャップを外します。
- ・駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- ・エンジンが完全に冷えてから作業します。
- ・燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

8-6 ドライブユニットの調整

ブレーキ/駐車ブレーキの調整

ブレーキが正しくきくのかは乾燥したコンクリートの上で確認してください。5速で走行し、ブレーキを掛けたとき1.5m以内で停止すればブレーキがきいています。

ブレーキがきかない場合は、以下の手順でブレーキを調整してください。

1. スパークプラグコードをプラグから抜き、離しておきます。
2. 燃料タンク内のガソリンを抜き取ってください。
3. リアバンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。
4. クラッチ/ブレーキペダル(図8-8のA)を踏み込みます。駐車ブレーキレバー(B)を「ON」としてロックさせクラッチ/ブレーキペダルを離します。

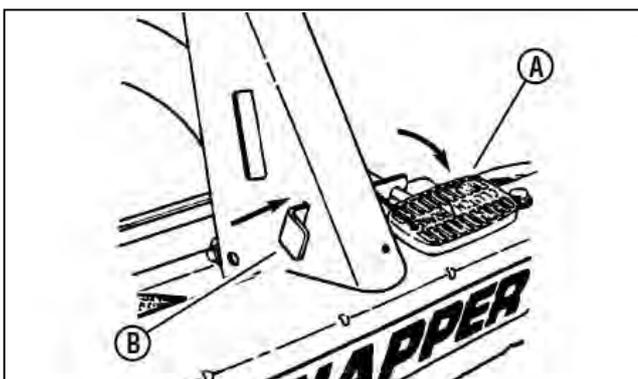


図 8-8 駐車ブレーキのセッティング

重要

エミッションシステムの損傷防止のために:

- ・燃料タンクに補給する際には溢れさせないでください。燃料フィルタに燃料が達したら止めてください。
- ・リアバンパーを下にして芝刈機を持ち上げる前にタンク内のガソリンを抜いてください。

5. クラッチ/ブレーキケーブル(B)の下端からケース(C)の底までの距離(図8-9のA)を測ります。規定距離は19mmです。

注意:コッタピン(図8-9のD)、ブレーキスプリング(E)、クラッチヨーク(F)は図の示す通りです。

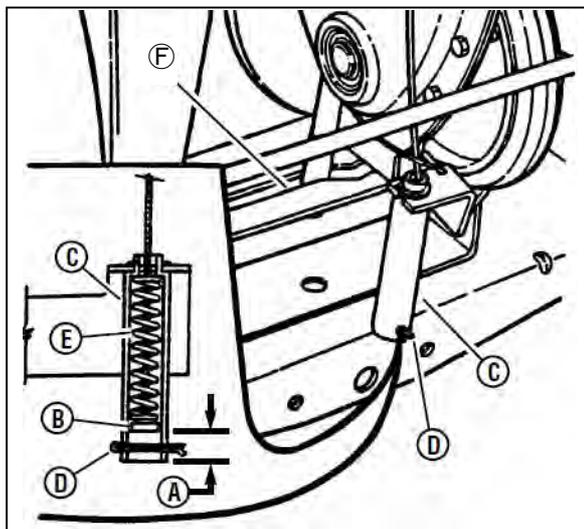


図 8-9 ブレーキケーブルの調整

6. クラッチ/ブレーキケーブルの下端からケースの底までの距離が規定より長かったり、短い場合は次の手順に従って調整してください。
 - ・クラッチ/ブレーキケーブルをチェーンケースに止めている二つのロックナットを緩めます。
 - ・クラッチ/ブレーキケーブルの下端からケースの底までの距離が規定距離に入るように調整します。(図8-10参照)
7. 調整が終わったらロックナットをしっかりと締め付けます。

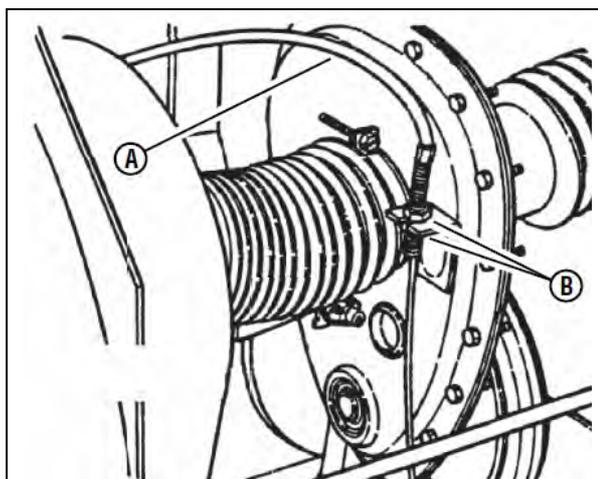


図 8-10 ブレーキケーブルの調整ナット



警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタートキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

8-7 モアブレードの交換

ブレードの使用限界

1. ブレードが過度にすり減っていたり、傷ついたりしていないか時々点検し、傷ついたブレードは新しいブレードと交換します。(図 8-11)
(A) 新品のブレード
(B) 磨耗の限界
(C) 大変危険な状態-絶対に使用しない

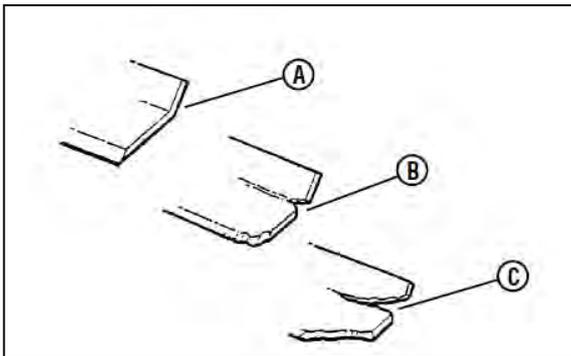


図 8-11 ブレードの使用限界

5. 良品ブレードの刃先角度は22~28度(図 8-13のB)です。この角度より小さく研磨しないでください。
6. 研磨後はブレードの中心の穴を太いボルトで支えて重さのバランスを確認し、バランスがとれるように再度研磨して調整してください。
7. ブレードをマウントボルトとロックワッシャ、ロックナットで締め付けます。マウントボルトの締め付けトルクは4.5~5.5kgf-mです。

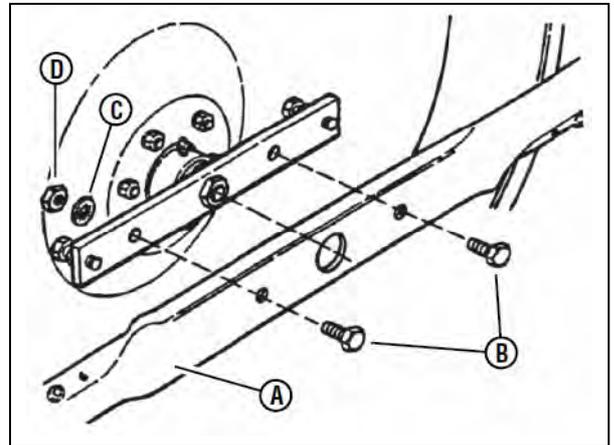


図 8-12 ブレードの取り外し

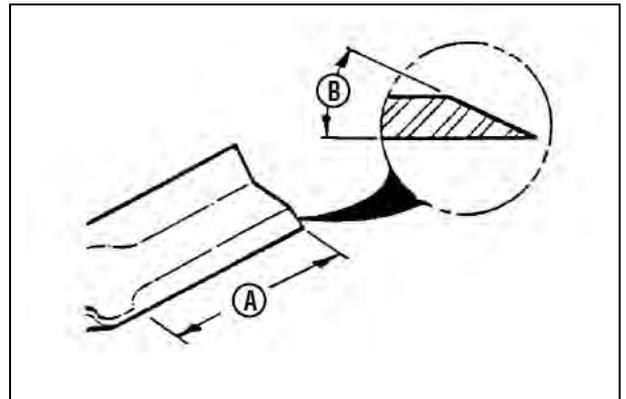


図 8-13 ブレード先端角度



警告

大きな破損や亀裂のあるブレードは絶対に使用しないでください。ブレードの破損については図を参考にしてください。

ブレードを扱う際には保護手袋をつけて十分に注意して行ってください。

ブレードの研磨

1. スパークプラグコードをプラグから抜き、離しておきます。
2. 燃料タンク内のガソリンを抜き取ってください。
3. リアバンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。
4. ボルト(図 8-12のB)ワッシャ(C)やナット(D)を取り外し、ブレード(A)を取り外します。

重要

エミッションシステムの損傷防止のために:

- 燃料タンクに補給する際には溢れさせないでください。燃料フィルタに燃料が達したら止めてください。
- リアバンパーを下にして芝刈機を持ち上げる前にタンク内のガソリンを抜いてください。



警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタートキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかりと掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

8-8 モアベルトの交換

ベルトをよく点検し、磨耗したり傷のある場合は新しいベルトに交換してください。

ベルトの取り外し

1. ベルトカバーを外します。
2. 古くなったベルトは切断して外します。

ベルトの交換

1. アイドラ(図8-14のA)を外します。
2. 変速レバーを「N」(ニュートラル)に入れます。

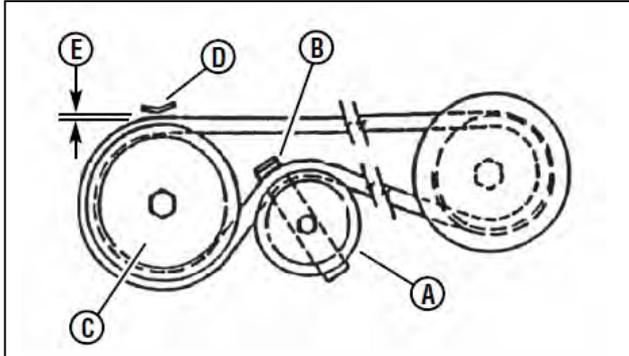


図 8-14 28" デッキのベルト取り回し

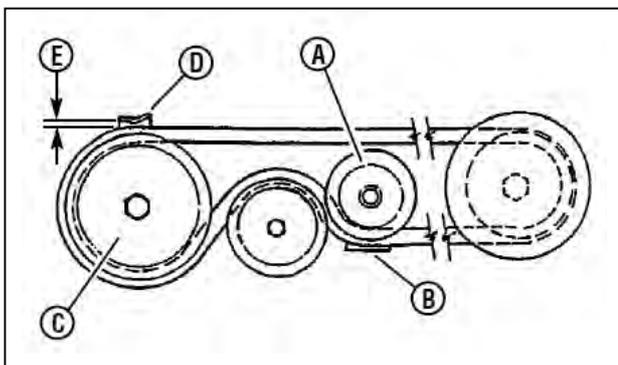


図 8-15 33" デッキのベルト取り回し

3. スパークプラグコードをプラグから抜き、離しておきます。

4. 燃料タンク内のガソリンを抜き取ってください。
5. リアバンパーを下にして芝刈機を立てます。
6. 新しいベルトをエンジンベルトガイド(図8-16のB)に通しエンジンプーリ(A)に回します。

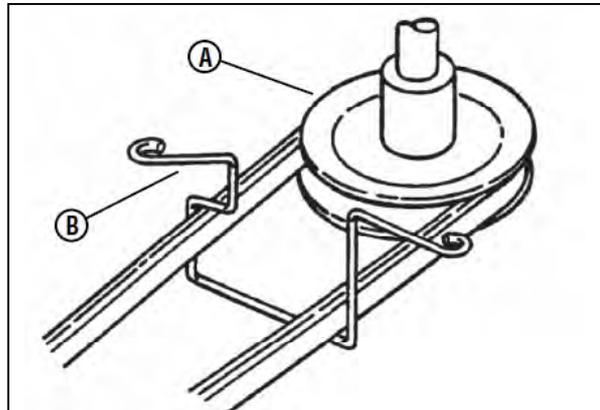


図 7-16 エンジンプーリとベルトガイド

7. 変速レバーを(N)ニュートラルの位置とします。
8. クラッチヨーク(図8-9のF)を手で外に回してドライブディスクとゴムリングの溝にベルトが入っているかどうかを確認めます。
9. チェーン・ケースを動きやすくさせるために、変速レバーを5の位置へ動かしてください。ドライブ・ディスクのまわりに、ドライブプーリにベルトを送ってください。
10. アイドラー(図8-14, 15のA)を外します。
11. ベルトをスピンドルプーリ(C)へ回します。ベルトがスピンドルベルトガイド(D)とアイドラーベルトガイド(B)の間に置きます。ベルトの取り回しは図8-14, 15の通りです。
12. アイドラーを取り付け、アイドラーベルトガイドが端にくるようにして、アイドラプーリのボルトをしっかりと締め付けます。
13. ベルトガイドとベルト間の隙間(E)が1.5mmとなるよう調整してください。
14. 必要に応じてドライブベルトのテンションを確認してください。(28"モデルのみ)
15. ベルトカバーを取り付けます。

重要

エミッションシステムの損傷防止のために:

- 燃料タンクに補給する際には溢れさせないでください。燃料フィルタに燃料が達したら止めてください。
- リアバンパーを下にして芝刈機を持ち上げる前にタンク内のガソリンを抜いてください。

警告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行う際には、必ず次の事項を確認してから行ってください。

- エンジンを完全に停止します。
- スタートキースイッチを「OFF」として、キーを抜いておきます。
- スパークプラグキャップを外します。
- 駐車ブレーキをしっかり掛けます。
- エンジンが完全に冷えてから作業します。
- 燃料漏れが無いようタンクキャップはしっかりと締めます。

8-9 バッテリー

バッテリーの取り外し

1. バッテリーカバー(図 8-16 の A)の両サイドを引き、ラチェットファスナ(B)から外しカバーを取り外します。

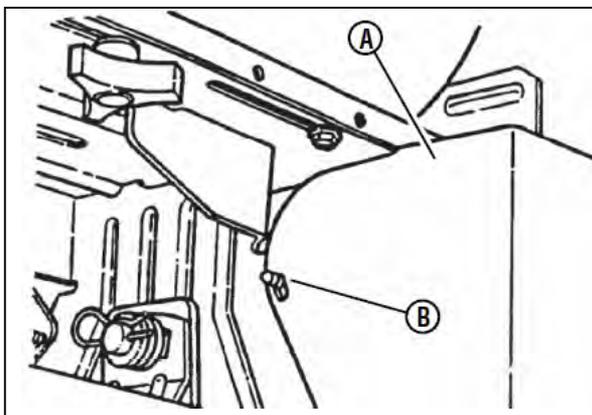


図 8-16 バッテリーカバー

2. 金具(図 8-17 の A)を外し、バッテリー固定ブラケット(B)を外します。

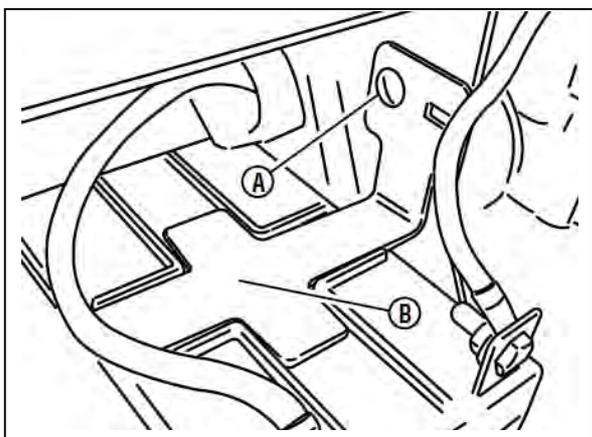


図 8-17 バッテリー固定ブラケット

3. 黒いマイナスケーブル(図 8-18 の A)をバッテリーのマイナスターミナルから外します。

警告

常にバッテリーのマイナス(-)ケーブルを先に外してください。

4. 次に赤い(+)ケーブル(図 8-18 の A)をバッテリーから外します。
5. バッテリーを芝刈機から取り外します。

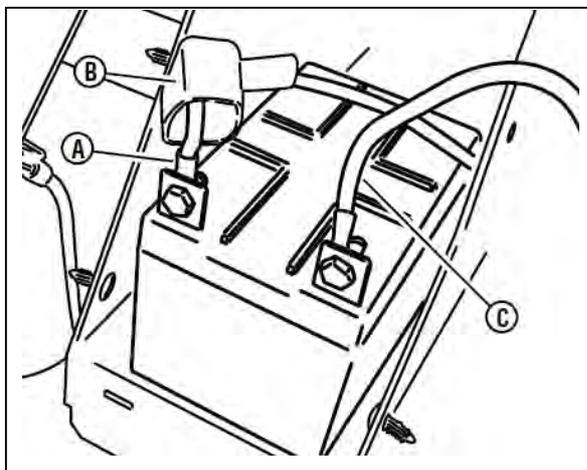


図 8-18 バッテリーの接続

バッテリーの取り付け

1. バッテリーをケースに入れます。
2. 赤い(+)ケーブル(図 8-18 の A)をバッテリーのプラス(+)ターミナルに接続します。

警告

常にバッテリーの赤いプラス(+)ケーブルを先に取り付けてください。

3. 黒いマイナスケーブル(C)をバッテリーのマイナスターミナルに接続します。
4. バッテリーの双方のターミナルに防錆として少量のグリスを塗布します。
5. プラス側のターミナルカバー(B)をプラスターミナルに被せます。
6. バッテリー固定ブラケット(図 8-17 の B)を取り付けます。
7. バッテリーカバー(図 8-16 の A)を取り付けます。

警告

常に  テリーの赤いプラス(+)ターミナルとプラスのターミナルカバーを被せてください。

バッテリーの充電

- A. バッテリーは水平で平坦な、風投資の良い場所に置きます。
- B. バッテリーのセルキャップを外します。すべての電解液の量を点検し、不足していたら蒸留水を適切量になるまで補充します。
- C. セルキャップを外したまま、充電器の赤色(+)ケーブルのクリップをバッテリーの(+)-ターミナルに取り付けます。
- D. 充電器の黒色(-)ケーブルをバッテリーの(-)に取り付けます。
- E. 1A(アンペア)で10時間充電します。
- F. バッテリーが充電されてくると、電解液の中から盛んにガスが発生します。
- G. バッテリーが充分充電されなかったり、10時間でも充電が不十分な場合には、新しいバッテリーと交換してください。



危険

バッテリーを取扱い際には、エンジンの取扱説明書を併せて読み、感電死無きよう注意してください。バッテリーが芝刈機に取り付けてある間はバッテリーの充電をしないでください。また急速充電をしないでください。



警告

電解液は爆発性の高いガスを発生させます。バッテリーを充電する時や電解液を追加する時は必ず火気のない場所で行ってください。

電解液は腐食性の高い液体です。電解液を取り扱うときは、保護メガネ、保護手袋を着用してください。電解液が眼や皮膚に触れたときは、直ちに水で洗い流し医師の指示に従ってください。決して過充電はしないでください。

バッテリーの保管

使用シーズン以外は月に1回バッテリーを充電してください。またリアバンパーを下にして芝刈機を保管する場合には必ずバッテリーを外してください。

1. バッテリーを取り外してください。
2. バッテリーの電解液の点検を行います。
3. 必要であれば充電してください。
4. 芝刈機から離れた木製の台にバッテリーを保管します。



警告

絶対にコンクリートの床にバッテリーを保管しないでください。電解液がこぼれるとコンクリートと反応し、コンクリートを傷めることがあります。

9. トラブルシューティング

通常の点検と、定期的なメンテナンスは、機械の寿命を延ばしますが、長期間の使用等により特別な修理が必要となる場合があります。

下記のトラブルシューティング表には、一般的な原因を記載してあります。

トラブルの原因を解決する為に、どのようにすればいいか、簡単に行なえる調整と修理方法を記載してあります。不明な点は、販売店へご相談ください。

トラブル	トラブルの原因	対処方法
エンジンが始動しない (リコイルスタータのみの場合)	燃料タンクが空	燃料劣化剤を混ぜたガソリンを所定レベルまで給油してください
	チョークが必要	スロットルコントロールを「チョーク」としてください
	スパークプラグコードが外れている。	コードをスパークプラグに接続してください
	駐車ブレーキがかかっていない	駐車ブレーキを確実にかけます
	イグニッションスイッチが「OFF」となっている	イグニッションスイッチを「RUN」とします
エンジンが始動しない (セルスタータの場合)	燃料タンクが空	燃料劣化剤を混ぜたガソリンを所定レベルまで給油してください
	チョークが必要	スロットルコントロールを「チョーク」としてください
	スパークプラグコードが外れている。	コードをスパークプラグに接続してください
	駐車ブレーキがかかっていない	駐車ブレーキを確実にかける
	ヒューズが切れている	20 アンペアのヒューズと交換する
	インターロックスイッチが不良	販売店に相談してください
	イグニッションスイッチが「OFF」となっている	イグニッションスイッチを「START」とする
	バッテリーの容量不足もしくは不良	充電もしくは交換します
	バッテリーケーブルが外れているもしくは接続不良	ターミナルを清掃して正しく接続する 切れていれば新品に交換する
	セルモータもしくはスタータリレーの不良	販売店に相談してください
電気配線のハーネスが切れていたり破損している	正しく接続するもしくは交換します	
始動後エンストする	運転者が座席に座っていない	正しい姿勢で座りなおします
	スロットルレバーが「CHOKE」となっている	スロットルレバーを高速の位置にします
	燃料が不足している	燃料劣化剤を混ぜたガソリンを所定レベルまで給油してください
	エアクリーナが汚れて詰まっている	エアクリーナを清掃もしくは交換します
	スパークプラグの隙間が正しくない	スパークプラグ隙間を0.75mmとします
	燃料フィルタが詰まっている	燃料フィルタを交換します
	燃料に水、ゴミ、古い燃料が混ざっている	燃料系統を清掃し、燃料フィルタを交換します
エンジンの出力が上がらない	エンジンに負荷がかかりすぎている	エンジンにかかる負荷を減らします
	エアクリーナが汚れて詰まっている	エアクリーナを清掃もしくは交換します
	冷却フィンやローテティングスクリーンが詰まっている	冷却フィンやローテティングスクリーンを清掃します
	スパークプラグの不良	スパークプラグを清掃・調整するか交換します
	燃料に水、ゴミ、古い燃料が混ざっている	燃料系統を清掃し燃料フィルタを交換します
エンジン停止時バックファイヤする	スロットルレバーが高速のままである	低速で1分ほど運転した後にエンジンを停止します
振動が大きい	ブレードが磨耗、曲り、または破損している	ブレードを研磨もしくは交換します
	ブレードの取り付け不備	ブレードを正しくしっかりと取り付けます
	エアリフトが破損、取り付け不備 (エアリフト使用時)	エアリフトを交換もしくは正しく取り付けます
	ベルトのほつれ、変形	ベルト交換します
	アイドラー、ステイショナル等のプーリー変形	プーリーを交換します

エンジン始動しても芝刈機が動かない	ドライブディスクが磨耗、破損している	ドライブディスクを交換します
	クラッチディスクのゴムが接触不良	従動ディスクの取り付け位置を正しい位置とします
	車軸結合ピンの取り付け不良	販売店に相談してください
	車軸ベアリングの焼き付き	販売店に相談してください
	車軸のテーパボルトとナットの紛失	ボルトとナットを取り付けます
	チェーンケース、ディファレンシャルの潤滑不足	販売店に相談してください
芝が刈れていない	ブレードレバーが「OFF」となっている	ブレードレバーを「ON」とします
	モアベルトが滑っている	調整もしくは交換します
	ブレードが磨耗しているもしくは破損している	研磨もしくは交換します
芝がきれいに刈れない	タイヤの空気圧が不均一	タイヤの空気圧を正しく充填します
	刈高を高くまたは低く設定している	刈高調整レバーで適正な刈高に調整します
	エンジンの回転が低い	スロットルレバーを「FAST」とします
	芝刈機の走行速度が速すぎる	変速レバーで芝刈機の走行速度を落とします
	芝が左右不揃いに刈れる	デッキの左右の高さ調整します
	デッキの前後の高さが違いすぎる	デッキの前後の高さ調整します
	ブレードが磨耗しているまたは破損している	ブレードを研磨もしくは交換します
	デッキドライブベルトが滑っている	デッキドライブベルトを交換します
芝の排出不良	エンジンの回転が低い	スロットルレバーを「FAST」とします
	芝刈機の走行速度が速すぎる	変速レバーで芝刈機の走行速度を落とす
	芝が濡れている	芝が乾いている時に作業します
	ブレードが磨耗しているまたは破損している	ブレードを研磨もしくは交換します
	デッキに芝やゴミが詰まっている	デッキを清掃します
	正しいブレードを使用していない	純正プレートに交換します
オイル漏れ	チェーンケース、ディファレンシャルのプラグ不良	ガスケットやプラグを点検します プラグの場合は交換し、ガスケットの場合は販売店に相談します
	エンジン部分からオイル漏れ	販売店に修理依頼してください

SNAPPER®

2812524BVE

3317524BVE

取扱説明書

ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みください



ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン株式会社

〒523-0817 滋賀県近江八幡市浅小井町 591
TEL : 0748-34-0200 FAX : 0748-33-3818

SNP-BSJ12/2012.04